

平成29年度 県立病院を良くする会 次第

日 時 平成29年12月15日（金）
午後3時30分から
場 所 徳島グランヴィリオホテル
1階 ヴィリオールーム

1 開 会

2 議 事

- (1) 県立病院の平成28・29年度取組み（トピックス）について
- (2) 徳島県病院事業経営計画の取組状況について
- (3) 徳島県病院事業収支状況について

3 閉 会

【配付資料】

- 資料1 県立病院の取組み（平成28・29年度）
資料2 平成29年度徳島県病院事業経営計画の取組状況
資料3 徳島県病院事業収支の状況



県立病院の取組み (平成28・29年度)

平成29年12月15日
県立病院を良くする会資料

基本理念：県民に支えられた病院として、県民医療最後の砦となる



新海部病院エントランス陶板
「地域医療の輪」

地域医療の連携や広がりを表現

県立3病院の医療連携を
「トライアングル」で、
それぞれの病院からの医療の広がりを
「波紋」で表しています。

半永久的に姿が変わらない素材である
陶板を使用し、
**「徳島県全域の医療が未来に向かって
発展していく」**
との願いが込められています。

県立中央病院

総合メディカルゾーン本部

県立病院と大学病院が隣接する全国的に珍しい立地環境
⇒2病院を一体として**医療・教育の拠点化**を推進



MZ本部における**新たな取組み**

①**医療の拠点化**

◆**災害医療の拠点機能の強化に向けて、
両病院で初となる**

H29.2.24 合同災害訓練 (図上)

H29.10.7 合同災害訓練 (実地)

を実施



連絡橋を通じた患者搬送訓練



トリアージ訓練（中央病院）



マンホールトイレ（中央病院）



救急隊によるトリアージ訓練（徳大病院）

②情報・教育の拠点化

- ◆「MZ重点研修プログラム（定員3名）」の募集
徳島大学病院と県立中央病院を主軸とした
新たな一体的臨床研修プログラム
⇒結果：フルマッチ

□プログラム内容

期間：徳島大学病院8カ月以上（うち融合研修（両病院での研修）2カ月以上）
+ 県立中央病院6カ月以上が必須

徳島県	内科	救急	選択必修	地域	選択
	6ヶ月	3ヶ月	2ヶ月	2ヶ月	11ヶ月
MZ本部	徳島大学病院 - 徳島県立中央病院	徳島大学病院 - 徳島県立中央病院	徳島大学病院 - 徳島県立中央病院		徳島大学病院 - 徳島県立中央病院
MZ南部	徳島県立海部病院		徳島県立海部病院	徳島県立海部病院	徳島県立海部病院
MZ西部	徳島県立三好病院	徳島県立三好病院	徳島県立三好病院	徳島県立三好病院	徳島県立三好病院
	つるぎ町立半田病院		つるぎ町立半田病院	つるぎ町立半田病院	つるぎ町立半田病院
研修病院		徳島赤十字病院 田原病院			徳島市区病院 徳島健生病院 徳島県専門病院 吉野川医療センター 徳島赤十字病院 阿南共栄病院

*MZ = メディカルゾーン

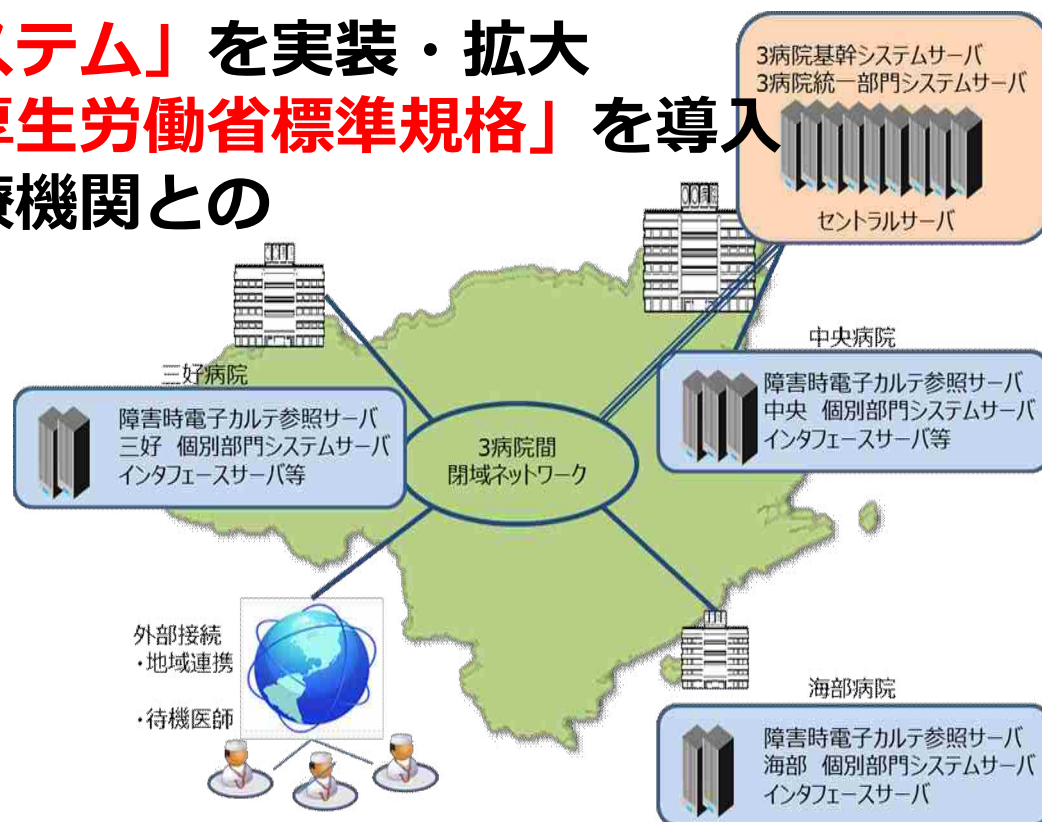
*徳島大学病院以外の研修については、病院により診療科が限定される場合があります。

◆医療情報システムの機能強化

○県立3病院の総合情報システムの統一化

(平成30年度稼働予定)

- ・ 3病院のサーバをセントラルサーバに集約
⇒ 「電子カルテ等の相互利用」を実現
- ・ 患者ID, マスタ及び帳票類を統一
⇒ 「医療共通番号」にも迅速に対応
- ・ 「地域医療連携システム」を実装・拡大
- ・ 医療情報分野の「厚生労働省標準規格」を導入
⇒ 各圏域の地域医療機関との
連携強化



○徳島大学病院電子カルテ更新（現在調達・導入準備中）

両病院を行き来する医療関係者がより利用しやすいシステム構築に向け、「操作性の同一化」を図る（ポータル画面デザインや用語辞書の共通化など）

○徳島大学病院「阿波あいネット」の構築
（H30.4運用開始予定）

これまで、導入しているカルテシステムの違い等から医療機関等で共有できていなかった「患者医療情報」（病名、検査結果、投薬内容、入退院履歴等）を患者同意の下、県全域の医療機関等で共有するシステム



より安全で質の高い医療・介護サービスの提供

③ メディカルストリートと駐車場の一体化



県立三好病院



◆地域特性に応じた 医療機能向上に向けた取組み

○「認知症」に強い医療体制づくり

H28.6.8 院内デイケア「さぎそう」を開設

- 参加対象
認知機能障害やせん妄があり，参加について主治医の許可がある患者など
上限は原則6名まで
- 実施場所
4階病棟談話室
- 実施日時
毎週水・金曜日 14時から15時30分
- 活動内容
認知機能訓練：お手玉，ぬりえ，
ちぎり絵，押し花等
身体機能訓練：輪投げ，ボール投げ
風船バレー，体操等



○ 「検査値付き院外処方箋」の提供開始

H29.6.12 徳島県内の公的病院では初となる
「検査値付き院外処方箋」の提供を開始

■ 印字項目

医薬品投与量の目安となる「身長・体重等の身体情報」

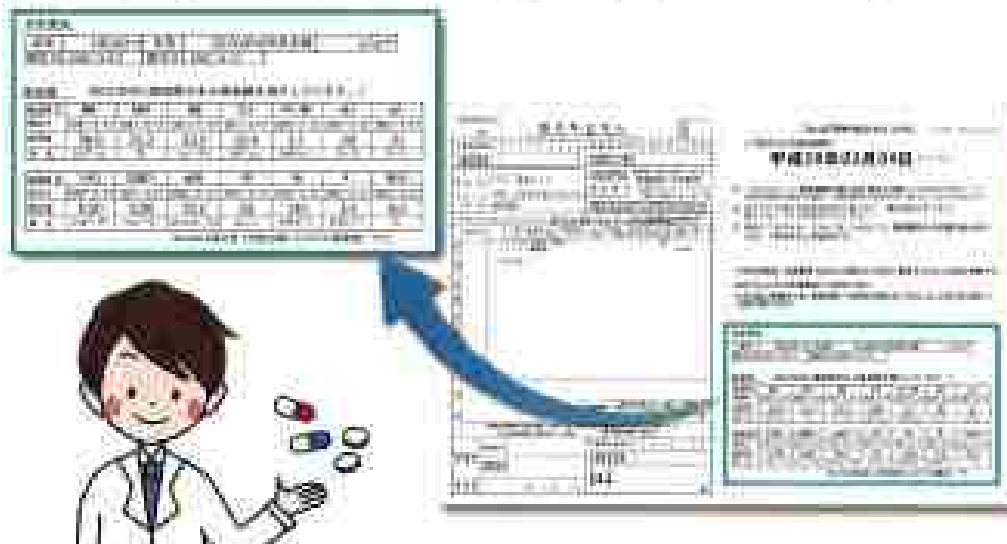
90日以内に測定歴のある「血液検査の検査値の一部（14項目）」

■ 効果

薬を調剤する院外薬局において、検査値等を参考に、個々の患者ごとに「処方内容」や「副作用の初期症状」をチェックした上での調剤が可能となる。

薬物療法の
副作用リスクの高い
高齢外来患者の多い
西部圏域において、
より安全で効果的な
医療サービスの提供
につながる

平成29年6月12日より、当院の院外処方せんに
検査値(血液検査)の一部が印字されます。



◆ 医師確保に向けた住環境の整備
⇒ 「医師公舎改修工事」を実施

○ 公舎外壁改修
改修前



外壁補修・塗装を実施

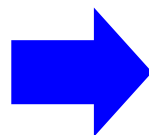
改修後



○公舎室内改修 改修前



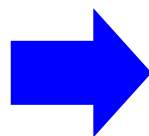
畳をフローリングに



改修後



浴槽等交換



県立海部病院

新県立海部病院
平成29年5月8日
開院

祝 新・徳島県立海部病院 完成記念式典



H29.4.15 完成記念式典テープカット

平 時

海部・那賀地域における基幹病院

◆より安全で質の高い医療と快適な療養環境の提供



1 F 受付・会計



1 F 総合案内



1 F 外来診察



4床室

■ 1床あたり面積 旧病院の**1.5倍**



個室

■ 個室の大幅増加 18床⇒**30床**

■ ドクターヘリの運行による
「救急医療の強化」



病院棟屋上ヘリポート



2Fリハビリテーション室



2F講堂

◆総合診療医の育成道場「地域医療研究センター」

■充実した設備により若手医師の研究・研修を支援



新専門医制度に対応した
「南阿波総合診療専門研修
プログラム」
による若手医師の育成

発災時

南海トラフ大地震を迎え撃つ先端災害医療の拠点



◆ 海拔 15.6m の高台
に移転改築

◆ 病院棟と
立体駐車場の屋上に
「ヘリポート」を設置



最大重量12tの立体駐車場ヘリポート

◆ 立体駐車場へリポートと
病棟 2 階を連絡通路で接続



◆ 太陽光発電+蓄電池
+ 自家発電装置の設置



◆ 「災害病棟」
「災害時 ICU」の活用



◆ 「海部・那賀モデル」の推進

H28.12 県・関係4町(那賀・牟岐・美波・海陽)による
医療提供体制「海部・那賀モデル」推進協定締結

- ① 医療従事者の相互交流
- ② ICTを活用したネットワークの構築
- ③ 診療材料などの共同調達
- ④ 地域医療研究センターを活用した
医師の育成 等の取組みを推進



「効率的」かつ「質の高い」
医療提供体制の構築に向けて
「海部病院」がしっかりと
その役割を果たしていく。



平成 2 9 年 度

徳島県病院事業 経営計画の取組状況

平成29年12月15日
県立病院を良くする会資料

経営計画の評価について

1 評価の考え方

「徳島県病院事業経営計画」で定めた「経営指標の状況」及び「平成28年度の取組み」を原則として評価するものとする。

2 評価方法

- ・ 経営計画で定めた4つの「主要施策」や、それぞれの「個別施策」を、以下の基準により評価を行い、各委員から御意見をいただく。

■「個別施策」の評価基準

◎：達成（取組目標を達成済）

○：順調（平成32年度に取組目標を達成できる状況）

△：努力（平成32年度の目標達成には努力が必要）

－：その他（実績値が不明等評価が困難）

■「主要施策」の評価基準

Ⓐ：◎又は○が8割以上

Ⓑ：◎又は○が6割以上8割未満

Ⓒ：◎又は○が6割未満

経営計画の主要4施策について

◇主要施策 1

「グループ力の強化」

◇主要施策 2

「医療機能の分化と連携の実現」

◇主要施策 3

「医療の質の向上」

◇主要施策 4

「経営の効率化」

主要施策 1

「グループカの強化」の自己評価

	個別施策	評価
(1)	広域的な救急医療支援体制の整備	○
(2)	医師の確保と指導医・専門医の育成	○
(3)	臨床研修の充実	○
(4)	スペシャリストの養成	○
(5)	医師，看護師等の勤務環境の改善・充実	○
(6)	危機管理への対応力の強化	○
(7)	ICT(情報通信技術)の活用	○
(8)	医療器械等の共同購入の推進	△

主要施策1:「グループ力の強化」 (2) 医師の確保と指導医・専門医の養成

進捗状況

○: 順調

(H28 実績概要)

主要指標	H26年度 (計画策定時)	H28年度 実績値	H32年度 目標値	備考
臨床研修指導医数 【県立3病院全体】	96名	113名	120名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中央病院: 97名 ・ 三好病院: 12名 ・ 海部病院: 4名

- ◆ 「臨床指導医養成講習会」の受講を促進することで、県立病院として、新たに10名の指導医を養成(中央9名, 三好1名)
- ◆ 「中央診療部門医師」の確保に向け、平成29年4月、中央病院に徳島大学寄附講座「麻酔診療部」を設置

主要施策1:「グループ力の強化」 (3)臨床研修の充実

進捗状況

○:順調

(H28 実績概要)

主要指標	H26年度 (計画策定時)	H28年度 実績値	H32年度 目標値	備考
初期・後期臨床研修医数 【県立3病院全体】	39名	47名	55名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中央病院: 43名 ・ 三好病院: 3名 ・ 海部病院: 1名

- ◆ 三好病院においては、新たに西部公立3病院, 2診療所が共同して取り組む「にし阿波初期臨床研修プログラム」の指定
- ◆ 海部病院においては、高台移転に際し、医師や実習を行う医学生等の宿泊機能や研修機能を備えた「地域医療研究センター」を整備



主要施策1:「グループ力の強化」 (4)スペシャリストの養成

進捗状況

○:順調

(H28 実績概要)

主要指標	H26年度 (計画策定時)	H28年度 実績値	H32年度 目標値	備考
高度医療研修医師派遣者数 【県立3病院全体】	4名	9名	14名	海外 3名 国内 2名
専門・認定看護師数 【県立3病院全体】	17名	23名	35名	認定看護師 6名増
看護学生実習指導者数 【中央病院】	24名	24名	34名	

◆ 認定看護師育成(資格取得分野)

中央病院:新生児集中ケア1名, 精神科1名,
がん放射線療法1名, 救急看護1名
三好病院:摂食・嚥下障害1名, 救急看護1名

主要施策1:「グループ力の強化」 (6)危機管理への対応力の強化

進捗状況

○:順調

(H28 実績概要)

主要指標	H26年度 (計画策定時)	H28年度 実績値	H32年度 目標値	備考
DMAT数 【県立3病院全体】	7チーム	8チーム	10チーム	<ul style="list-style-type: none"> 中央病院: 4チーム 三好病院: 2チーム 海部病院: 2チーム

◆ 中央病院においては、徳島大学病院と初の合同災害訓練を実施

◆ 三好病院においては、西部圏域災害医療訓練、西部圏域防災訓練等を実施

◆ 海部病院においては、免震構造でツインヘリポート等を備えた新病院を高台(海拔約15.6m)へ整備

◆ H30年1月 四国DMAT実働訓練本県開催
H30年8月 平成30年度大規模地震時医療活動訓練(政府主催)本県開催



主要施策1:「グループ力の強化」 (8) 医療器械等の共同購入の推進

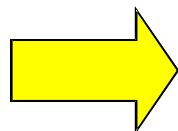
進捗状況

△:努力

(H28 実績概要)

主要指標	H26年度 (計画策定時)	H28年度 実績値	H32年度 目標値	備考
医薬品の採用品目数 【県立3病院全体】	1,869 品目	1,757 品目	1,000 品目以下	目標値は平成30年度目標
医療材料の共同購入品目数 【県立3病院全体】	168品目	193品目	250品目	

- ◆ 県立3病院においては、
医薬品、材料等の標準化に向け、
物品管理システムを一本化(H29年9月～)
- ◆ 海部病院においては、
南部圏域公立病院を加えた衛生材料等の共同交渉を実施
(「海部・那賀モデル」)



新たに導入された物品管理システム等を活用し、
より一体的な共同購入(交渉)を推進

主要施策 1
「グループ力の強化」の評価（案）

◎○数の合計 $7/8=88\%$

【 評価 (A) 】

主要施策 2

「医療機能の分化と連携の実現」の自己評価

	個別施策	評価
(1)	高度先進医療・臨床研究の充実	○
(2)	地域医療連携の充実	△
(3)	ホスピタルカーの運行	○
(4)	地域に不足する機能への取組の検討	○
(5)	地域医療機関・介護施設等に対する支援の充実	○
(6)	精神科医療ニーズの高まりに対する対応	○
(7)	住民に開かれた病院運営	○

**主要施策2:「医療機能の分化と連携の実現」
(1)高度先進医療・臨床研究の充実**

進捗状況

○:順調

(H28 実績概要)

- ◆ 中央病院においては、
整形外科・脳神経外科手術支援システムの導入

○高精度な治療・検査の実施

リニアック(2台4,220件うち高精度放射線治療275件)

内視鏡下手術支援ロボット(81件) , PET-CT (1,292件)



- ◆ 三好病院においては、
県西部で唯一の「地域がん診療病院」として、
専門的な緩和ケア病棟を持ち、手術・化学療法・放射線治療等など
「フルセットのがん医療」を提供 リニアック(1台923件)



- ◆ 海部病院においては、外来化学療法加算の施設基準を届出

主要施策2:「医療機能の分化と連携の実現」
 (2) 地域医療連携の充実

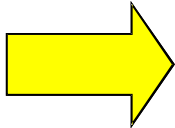
進捗状況

△:努力

(H28 実績概要)

主要指標		H26年度 (計画策定時)	H28年度 実績値	H32年度 目標値
紹介率	中央病院	80%	83%	90%
	三好病院	40%	52%	60%
	海部病院	29%	35%	40%
逆紹介率	中央病院	139%	171%	180%
	三好病院	97%	85%	120%
	海部病院	33%	37%	40%

- ◆ 海部病院においては、訪問診療、訪問看護等の在宅医療を推進
 訪問看護857件、訪問診療233件、在宅看取り18件

今後とも、地域の医療ニーズに応じ、
 三好・海部病院は、自らも在宅医療の推進に
 積極的に関与

**主要施策2:「医療機能の分化と連携の実現」
(4)地域に不足する機能への取組の検討**

進捗状況

○:順調

(H28 実績概要)

[地域医療構想を踏まえた役割]

	現 状	2025年の目指す姿
中央病院	高度急性期機能	高度急性期機能
三好病院	高度急性期機能・急性期機能	高度急性期機能・急性期機能・回復期機能
海部病院	急性期機能	急性期機能・回復期機能

- ◆ 三好病院においては、西部圏域において不足が予測される高度急性期及び回復期機能について、地域医療構想調整会議の議論をふまえ、今後、一部回復期機能への機能転換を検討
- ◆ 海部病院においては、訪問診療、訪問看護等の在宅医療を推進するとともに、地域ニーズのある回復期型病床を導入

**主要施策2:「医療機能の分化と連携の実現」
(6)精神科医療ニーズの高まりに対する対応**

進捗状況

○:順調

(H28 実績概要)

- ◆ 中央病院においては、精神科リエゾンチームの編成
定期的なカンファレンスを開催し、医師・看護師・MSW等の
情報共有と連携
- ◆ 三好病院においては、高齢化にともなう認知症対策の実施
認知症ケアサポートチーム(オレンジチーム)
院内デイケア「さぎそう」の開始
(平成29年度～週2回)
- ◆ 海部病院においては、完全予約制の
認知症外来の実施(毎週月曜日及び木曜日)



主要施策 2

「医療機能の分化と連携の実現」の評価（案）

◎○数の合計 $6/7 = 86\%$

【 評価 **A** 】

主要施策 3

「医療の質の向上」の自己評価

	個別施策	評価
(1)	チーム医療の推進	○
(2)	病院機能評価の継続受審	○
(3)	医療安全対策の推進	○
(4)	院内感染対策の推進	○
(5)	患者・職員の満足度の向上	○
(6)	患者さんの信頼を得る医療の推進	○
(7)	広報活動の充実	○
(8)	快適な病院利用環境の整備	○

主要施策3:「医療の質の向上」 (1) チーム医療の推進

進捗状況

○: 順調

(H28 実績概要)

主要指標		H26年度 (計画策定時)	H28年度 実績値	H32年度 目標値	備考
薬剤管理 指導件数	中央病院	11,961件	12,558件	16,000件	H28診療報酬改定に伴う認定要件の変更によるカウント数の減少等 (救命救急入院料算定患者が対象外となった。)
	三好病院	3,841件	3,358件	4,000件	
	海部病院	1,905件	1,772件	1,900件	

- ◆ 求められる医療需要に、的確かつ迅速に対応するため、中央病院においては、「精神科リエゾンチーム」を三好病院においては、「認知症ケアチーム」を新たに立ち上げるなど、チーム医療を推進

主要施策3:「医療の質の向上」 (8) 快適な病院利用環境の整備

進捗状況

○: 順調

(H28 実績概要)

◆ 中央病院においては、
外構工事に着手するとともに、徳島大学病院との
「駐車場の共同利用」及び「路線バスの乗入れ」
について関係機関と協議を実施



◆ 三好病院においては、
病院の北側駐車場を整備するとともに、
低層棟の床面の張り替えを実施



◆ 海部病院においては、
新病院の高台移転・開院(平成29年5月)に伴い、
「立体駐車場の整備」や「路線バスの乗り入れ」を
開始



主要施策 3

「医療の質の向上」の評価（案）

◎○数の合計 $8/8=100\%$

【 評価 **A** 】

主要施策 4

「経営の効率化」の自己評価

		個 別 施 策	評 価
(1)	収入確保 の強化	急性期医療の重点化	△
(2)		DPC分析による経営戦略の策定	○
(3)		診療報酬制度への戦略的な取組	○
(4)		未収金の発生防止と改修促進	○
(5)		医師の確保と育成(再掲)	○
(1)	経費削減 の強化と 効率化の 推進	後発医薬品の採用	◎
(2)		医療器械等の共同購入の推進(再掲)	△
(3)		効率的な委託業務の推進	○
(4)		医療情報システムの統一化及び総務事務の ICT化	○
(5)		事務部門のスリム化と強化	○
(6)		病院資産の有効活用	○

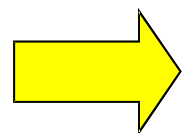
主要施策4:「経営の効率化」 (1)急性期医療の重点化

進捗状況

△:努力

(H28 実績概要)

主要指標		H26年度 (計画策定時)	H28年度 実績値	H32年度 目標値	説明
平均在院 日数	中央病院	9.7日	9.9日	9.6日	精神病床を除く
	三好病院	16.1日	14.0日	13.5日	緩和ケア病床を除く
1日平均 新規入院 患者数	中央病院	30.9名	30.5名	33名	精神病床を除く
	三好病院	8.2名	8.8名	10名	緩和ケア病床を除く



平均在院日数については、今後、
地域で求められる医療機能に応じ、
こういった目標値としていくか検討
が必要



主要施策4:「経営の効率化」 (1)後発医薬品の採用

進捗状況

◎:達成

(H28 実績概要)

主要指標		H26年度 (計画策定時)	H28年度 実績値	H30年度 目標値	説明
後発医薬品 割合	中央病院	68.4%	82.6%	80%	H28目標値:70% (数量シェア算定式)= [後発医薬品の数量]÷ [後発医薬品のある先発医薬品数量] +[後発医薬品の数量]
	三好病院	63.9%	83.0%	80%	
	海部病院	82.2%	90.7%	80%	

- ◆ 調剤薬局における後発医薬品使用率アップに向け、
外来処方箋の「一般名処方」を県立3病院で実施
海部病院(平成24年度より実施)
中央病院(平成29年11月1日より実施)
三好病院(平成29年12月18日より実施予定)

主要施策 4
「経営の効率化」の評価（案）

◎○数の合計 $9/11=82\%$

【 評価 ○ A ○ 】

主要施策 1

「グループカの強化」に向けた取組

取組の方向性

県立3病院の経営資源の一体的な活用と、徳島大学病院及び徳島県鳴門病院との連携による「グループカの強化」に取り組み、一体的な医療提供体制の構築を目指します。

自己評価

A

主要施策項目	施策の概要	進捗状況				平成28年度実績の説明
		達成	順調	努力	その他	
		◎	○	△	—	
(1) 広域的な救急医療支援体制の整備	ドクターヘリに加え、ホスピタルカーの活用により三好病院、海部病院、徳島県鳴門病院における重症患者の救命処置等を中央病院医師が支援できるような環境・体制整備の充実に取り組みます。		○			<p>【中央病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ドクターヘリ：新病院開院時より運航を開始し、県内全域を25分以内でカバーすることが可能。山間部などの事故等に対し大きな効果を発揮（H28年度：459件） ホスピタルカー：重症患者の病院間搬送等を行う高規格救急車（人工呼吸器、モニター付除細動器、携帯型モニター等を搭載）の購入（H28年度）
(2) 医師の確保と指導医・専門医の養成	<p>総合メディカルゾーン本部を核とし、県立病院間での医師のローテーション勤務を一層推進し、効果的な人材活用と育成を図ります。</p> <p>また、地域枠医師等を積極的に受け入れ、県立3病院の診療機能の特性を生かしながら臨床力を養成し、県立3病院全体でキャリア形成支援に取り組みます。</p> <p>また、今後、中央診療部門医師（麻酔科医・放射線科医・病理医）の不足が予測されることから、長期的な視野で確保・育成に取り組みます。</p> <p>さらには、徳島大学病院や県医師会等との連携・協力により、新たな専門医制度への対応を図り、高度な知識や技術・経験を持つ指導医や専門医を養成するなど、優れた医師の育成・医療の質の向上を推進するとともに、次の世代の研修医を育てる医師育成サイクルを構築します。</p>		○			<p>・医師免許取得後7年目以降の医師に「臨床指導医養成講習会」の受講を促し、資格取得者が増加した。</p> <p>【中央病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床研修医の確保のため、当院独自の臨床研修説明会の開催や病院見学の受け入れ等に取り組んだ。 臨床研修の質の向上のため、指導医養成講習会に参加し、新たに9名が臨床研修指導医資格を取得した。（H28年度指導医数：97名） <p>【三好病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基幹型臨床研修病院の指定（H29.3.7）。平成29年度から研修医の募集を開始。 県南地域における医師の安定確保に向け、新病院（H29.1完成）を「総合診療医の育成道場」として地域医療に貢献できる総合的な医療人材の育成に活用するために地域医療研究センターの設備充実を図った。（H28年度指導医数：12名） <p>【海部病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 常勤医師不足が深刻化するなか、徳島大学病院の寄附講座医師をはじめ、県立中央病院等から応援診療を受けながら診療体制の維持に努めた。 県南地域における医師の安定確保に向け、新病院（H29.1完成）を「総合診療医の育成道場」として地域医療に貢献できる総合的な医療人材の育成に活用するために地域医療研究センターの設備充実を図った。（H28年度指導医数：4名）
	<p>主要指標</p> <p>○臨床研修指導医数【県立3病院全体】</p>	計画策定時（H26年度）数値	H28年度実績値	H32年度目標値		
		96名	113名	120名		
(3) 臨床研修の充実	<p>中央病院では、総合メディカルゾーン本部としての位置づけを踏まえ、志と臨床力の高い医師を輩出する実践教育病院として、三好病院においては、「にし阿波3病院後期臨床研修プログラム」、海部病院においては、「南阿波総合医・家庭医プログラム」により、各地域を支える医療拠点として、関係医療機関と連携した特色ある研修指導を行います。</p> <p>また、徳島県鳴門病院と連携し、研修医の受入・養成環境を充実します。</p> <p>また、海部病院の高台移転に併せて、診療や研修に従事する医師や実習を行う医学生等の環境改善を図るため、宿泊機能や研修支援機能等を備えた「地域医療研究センター」を整備します。</p>		○			<p>・初期・後期臨床研修医について増加した。</p> <p>【中央病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基幹型研修病院として、初期研修医24名を育成するとともに、徳島大学病院の協力型研修病院として10名の研修医を受け入れた。 海部病院・三好病院・那賀町立上那賀病院と連携し、研修医が地域医療の現場で実際に勤務を行うなど、地域医療における先導的な役割を果たした。 <p>【三好病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 徳島大学病院及び県立中央病院の協力型臨床研修病院として、13名の研修医を受け入れた。 西部圏域で唯一の救命救急センターを持つ当院を中心として、西部圏域の公立3病院、2診療所が共同して取り組む「にし阿波初期臨床研修プログラム」について指定を受けた。平成29年度から研修医の募集を開始。 <p>【海部病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 診療や研修に従事する医師や実習を行う医学生等の環境改善を図るため、宿泊機能や研修支援機能等を備えた「地域医療研究センター」の整備を行った。（徳島大学医学部生の学外臨床実習の場として、医学部5年生が一週間の実習を実施。H28年度：約100名） 徳島大学病院、鳴門病院及び県立中央病院の協力型臨床研修病院として、臨床研修医を積極的に受け入れた。（H28年度：17名） 「南阿波総合医・家庭医養成プログラム」（H26年度～）において、県外の医大出身者1名の後期臨床研修医を受け入れた。 初期・後期臨床研修医受入数：17名（H28年度）
	<p>主要指標</p> <p>○初期・後期臨床研修医数【県立3病院全体】</p>	計画策定時（H26年度）数値	H28年度実績値	H32年度目標値		
		39名	47名	55名		

主要施策項目	施策の概要	進捗状況				平成28年度実績の説明															
		達成	順調	努力	その他																
		◎	○	△	—																
(4) スペシャリストの養成	<p>高度化・専門化する医療に対応するため、各県立病院がそれぞれの担うべき機能に応じた研修の方針・計画を策定し、職員の実質向上を図ります。</p> <p>県立病院の医師を、大学や教育研究機関、高度先進医療機関、国際学会等に派遣し、特に高度な専門的知識及び技能を修得させ、職員の実質向上と組織内の知識技能の共有に努めます。</p> <p>また、看護師や薬剤師などの各職種での資格取得等、知識・技能の習得及びその共有に努めます。</p> <p>さらには、県内における看護養成学校からの実習生の受け入れを通じ、県内全体の看護職確保や質の向上に資するとともに、受け入れ体制として、さらに細やかな対応が出来るよう看護学生実習指導者等の育成に努めます。</p>						<p>・医師を国内の先進医療機関や海外の大学に派遣し、特に高度な専門的知識や技能を修得させた。(H28年度:2名)</p> <p>・専門・認定看護師の養成を戦略的に行うために策定された「養成基本方針」を改定し、看護の分野を絞って重点的に養成していくこととした。</p> <p>・専門・認定看護師教育課程派遣者:3病院計3名(H28年度)</p> <p>【中央病院】</p> <p>・学会、研修会に多数の医療職員が参加し、病院や各局での報告会を通じて知識・技術の共有を図り、医療現場の質の向上に努めた。</p> <p>(高度医療研修参加者:医師2名、国際学会等参加者:医師5名、病院での講演会等:計108回)</p> <p>(ドクターヘリ従事者研修:看護師2名・ドクターヘリ講習会(DJT):看護師1名、実習指導者講習会:看護師1名、認定看護師研修:2名、専門看護師研修:2名、医療安全管理者養成研修:看護師4名、新人看護職員指導者研修:5名、ICLS(二次救急処置コース):看護師3名・看護協会実習指導者講習会受講者:1名)</p> <p>・医師、看護師、薬剤師、理学療法士等の実習生の受け入れ</p> <p>【三好病院】</p> <p>・総合内科専門医:2名、認定内科医:2名、肝臓専門医:1名が認定されるなど、高度な知識や技術・経験を持つ専門医の養成を推進した。</p> <p>・泌尿器科専門医教育施設から拠点教育施設にランクアップされた。(平成29年度から)</p> <p>・院外研修及び学会に医療関係職員が参加した。(H28年度:計456名)</p> <p>(認定看護管理者教育ファーストレベル:4名、セカンドレベル:1名、第1種放射線取扱主任者:1名、徳島県糖尿病療養指導士:1名、認定実務実習指導薬剤師:1名)</p> <p>【海部病院】</p> <p>・看護職については、キャリアラダーによる研修を行っており、ステップアップできるよう研修会の企画及び衛星放送等による研修会を実施した。</p> <p>・認定看護師(感染、緩和ケア、救急看護)による研修で、専門的知識を深めた。</p> <p>・効果的な研修体制によるキャリアアップにより、看護職のモチベーションの向上や離職防止にも努めた。</p> <p>・認定看護師:2名(H22感染管理認定看護師1名、H24糖尿病認定看護師1名)</p> <p>・ファーストレベル研修2名、医療安全管理者研修1名の派遣</p>														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>主要指標</th> <th>計画策定時(H26年度)数値</th> <th>H28年度実績値</th> <th>H32年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○高度医療研修医師派遣者数【県立3病院全体】</td> <td>4名</td> <td>9名</td> <td>14名</td> </tr> <tr> <td>○専門・認定看護師数【県立3病院全体】</td> <td>17名</td> <td>23名</td> <td>35名</td> </tr> <tr> <td>○看護学生実習指導者数(看護協会実習指導者講習会修了者数)【中央病院】</td> <td>24名</td> <td>24名</td> <td>34名</td> </tr> </tbody> </table>	主要指標	計画策定時(H26年度)数値	H28年度実績値	H32年度目標値	○高度医療研修医師派遣者数【県立3病院全体】	4名	9名	14名	○専門・認定看護師数【県立3病院全体】	17名	23名	35名	○看護学生実習指導者数(看護協会実習指導者講習会修了者数)【中央病院】	24名	24名	34名	○			
	主要指標	計画策定時(H26年度)数値	H28年度実績値	H32年度目標値																	
	○高度医療研修医師派遣者数【県立3病院全体】	4名	9名	14名																	
○専門・認定看護師数【県立3病院全体】	17名	23名	35名																		
○看護学生実習指導者数(看護協会実習指導者講習会修了者数)【中央病院】	24名	24名	34名																		
<p>県民への医療サービスの向上につながる医師等の業務の負担軽減を図るため、事務補助者(医師事務作業補助者等)の効果的な配置を進めます。</p> <p>また、中央病院で院内保育所を運営し、職員が出産や育児といった多様なライフステージに対応して業務を続けていくことができる職場環境の醸成を図ります。</p>					<p>・医師等の負担軽減を図るため、医師事務作業補助者の増員を図り積極的活用を行った。</p> <p>【中央病院】</p> <p>・医師事務作業補助者:33名まで増員</p> <p>・定員80名(内徳大10名)の院内保育所では病児保育への対応や半日保育、臨時保育を設定した。</p> <p>【三好病院】</p> <p>・医師事務作業補助者を14名まで増員</p> <p>・三好市医師会による救急診療支援(週1回木曜日:7名の医師が交代で1名派遣)、小児救急診療支援(月1回第2火曜日)</p> <p>・地域の老人クラブ等で組織された「三好病院を応援する会」の医師会舎の清掃作業等の活動による医師の勤務環境の改善</p> <p>・看護師等において育児等復帰後は超過勤務や夜勤等勤務上の配慮により、子育てと仕事両立できる職場環境作り</p> <p>【海部病院】</p> <p>・医師事務作業補助者:4名まで増員(H29年度途中から5名に増員)</p> <p>・看護師等において育児等復帰後は超過勤務や夜勤等勤務上の配慮により子育てと仕事両立できる職場環境作りに努めた。</p>																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>主要指標</th> <th>計画策定時(H26年度)数値</th> <th>H28年度実績値</th> <th>H32年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○医師事務作業補助者数【県立3病院全体】</td> <td>40名</td> <td>44名</td> <td>50名</td> </tr> </tbody> </table>	主要指標	計画策定時(H26年度)数値	H28年度実績値	H32年度目標値	○医師事務作業補助者数【県立3病院全体】	40名	44名	50名	○												
主要指標	計画策定時(H26年度)数値	H28年度実績値	H32年度目標値																		
○医師事務作業補助者数【県立3病院全体】	40名	44名	50名																		
(6) 危機管理への対応力の強化	<p>南海トラフ巨大地震等に備え、災害拠点病院としての機能が十分果たせるよう、災害発生時の患者受け入れ体制を強化します。</p> <p>このため、トリアージ訓練等の実践的な災害訓練や研修を総合メディカルゾーン本部として、また県立3病院と徳島県鳴門病院との連携により実施し、災害時における対応能力の向上に努めます。</p> <p>また、DMATの育成・強化を行うとともに、徳島県鳴門病院と連携して災害用医療資機材や災害用食料品等の整備を図ります。</p> <p>また、県立3病院の施設・機能に応じた「災害対策マニュアル」や「事業継続計画(BCP)」を整備するとともに、新型インフルエンザへの適切な対応等、危機管理体制の構築を図ります。</p>					<p>・各病院において、南海トラフ巨大地震を想定した多数傷病者受け入れ訓練や衛星電話等による情報伝達訓練を実施し、災害時に備えた救急救護体制の強化を図った。更に、広域災害にも対応できるよう、総合メディカルゾーン基本構想に基づく徳島大学病院と初となる合同訓練や市町村、自衛隊等関係機関との連携訓練を実施し、災害医療体制における連携強化を図った。順次、DMATとして必要な知識を有する専門職員を養成し、引き続き、災害拠点病院として、発災直後の災害急性期における医療活動を担えるよう、専門職員の養成に努める。</p> <p>・災害用備蓄食料については、県立3病院と鳴門病院が共同購入を実施し、計画的な整備に努めた。</p> <p>【中央病院】</p> <p>南海トラフ地震などの大規模災害に備えるため、年間を通じて各種訓練を実施したほか、展示等を行い、災害に対する意識向上を図った。</p> <p>・災害対策本部立ち上げ訓練・災害時情報共有システム入力訓練(4回)・多数傷病者受け入れ訓練・徳島大学病院との合同図上訓練</p> <p>・災害パネル展(3週間)・中央病院GHANELカワルツ災害関連講演等(7回)・災害対策動画マニュアル作成に着手</p> <p>・熊本地震に対し、DMAT・DPAT・ドクターヘリを派遣した。</p> <p>【三好病院】</p> <p>・西部圏域災害医療訓練(ゼロ作戦災害医療プロジェクト)、西部圏域防災訓練(西部県民局)、三好病院定期訓練の連携訓練を行い、院内災害対応本部の設置・運営及びDMAT活動拠点本部の設置・運営訓練を行うことで多数傷病者受け入れ時のゾーニング・動線について確認し、院内災害対応マニュアルの改訂に役立てた。(H28.11.26)</p> <p>・DMAT:2チーム、熊本地震への職員派遣(県立中央病院のDPAT先遣隊(業務調整員1名)、DMAT1隊、医療救護班)</p> <p>【海部病院】</p> <p>・災害拠点病院機能を一層充実・強化した新病院の整備(鉄筋コンクリート造6階建の免震構造、「太陽光発電設備」、「ツインヘリポート」)</p> <p>・DMAT:2チーム、災害関係研修(徳島県防災訓練:職員6名、災害医療従事者研修:職員5名、四国DMAT実働訓練:5名)</p> <p>・災害訓練の実施(消防署・牟岐町役場と衛星携帯電話を使用した通信訓練、火災訓練、避難所運営HUG訓練)</p>															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>主要指標</th> <th>計画策定時(H26年度)数値</th> <th>H28年度実績値</th> <th>H32年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○DMAT(災害派遣医療チーム)数【県立3病院全体】</td> <td>7チーム</td> <td>8チーム</td> <td>10チーム</td> </tr> </tbody> </table>	主要指標	計画策定時(H26年度)数値	H28年度実績値	H32年度目標値	○DMAT(災害派遣医療チーム)数【県立3病院全体】	7チーム	8チーム	10チーム	○											
	主要指標	計画策定時(H26年度)数値	H28年度実績値	H32年度目標値																	
	○DMAT(災害派遣医療チーム)数【県立3病院全体】	7チーム	8チーム	10チーム																	

主要施策項目	施策の概要	進捗状況				平成28年度実績の説明											
		達成	順調	努力	その他												
		◎	○	△	—												
⑦ ICT（情報通信技術）の活用	<p>県立3病院において、電子カルテシステムを中心とした医療情報システムを統一し、遠隔画像診断や診療連携を推進するとともに、ICTの進展や医療環境の変化に対応して適宜システムの見直しを図ります。</p> <p>総合メディカルゾーン本部を核とした医療連携を強化するため、徳島県鳴門病院や徳島大学病院をはじめ、地域の医療機関との連携を目指し、地域医療ネットワークの充実等、医療情報基盤を整備していきます。</p> <p>さらに、海部病院におけるKサポートシステムの取組成果を踏まえ、今後、スマートフォンやタブレット端末を活用した当システムの一層の推進を検討していきます。</p>					<p>・県立3病院で医療情報を共有し、システムの相互利用を可能とするともに、総合メディカルゾーン本部の徳島大学病院や鳴門病院をはじめとする各圏域の地域医療機関との連携強化を更に進めるため、平成30年度の3病院のシステム統一化に向けて「病院総合情報システム統一化事業」を推進した。具体的に平成28年度は、医療システム専門のコンサルタント会社を調達するとともに、当該事業の推進組織（メンバー：本局、3病院、コンサルタント会社）である「病院総合情報システム導入会議」等を設置し、6月のキックオフ会議を皮切りに、現行システム調査、次期システムへの要望ヒアリングに始まり、平成27年度に策定した「整備方針」をより具現化するために、システム統一化に向けてのより具体的な計画、詳細な手法をまとめた「基本方針」を策定するとともに、「暫定版調達仕様書（案）」を作成した。</p> <p>平成29年度は、調達仕様書の最終調整・決定を行い、入札手続きを進め、新ベンダを選定し、システム構築作業を進める。</p> <p>【中央病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレビ会議システムの利用価値を上げるため、病院職員自身がより容易に準備・操作を行えるようにすることを目的に、システムを特定会議室に常設する形に運用に変更した。（1台新規調達し2台体制に） ・病院業務の改善や制度改定対応のため電子カルテシステムの機能改修を行った（標準看護計画の導入、持参薬の報告/処方機能の追加） ・徳島大学病院と脳卒中遠隔診断支援システム（JOIN）の試験的運用を開始した。（脳神経外科、神経内科の医師を対象） <p>【三好病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H28診療報酬改正に伴い持参薬機能の拡充（現行システム） <p>【海部病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山間部等の救急搬送患者の状況を遠隔地医師が迅速に把握可能な「海部病院遠隔診療支援システム（Kサポートシステム）」の運用 ・県南部の海部・那賀地域の公立病院が一体となって取り組む「海部・那賀モデル」の一環として、海部病院と上那賀・美波・海南の町立3病院を結ぶテレビ会議システムの導入を予定（H29年度） ・今後は、無医地区等に居住する寝たきり老人等へ、タブレット端末等によるテレビ電話機能を活用した遠隔医療を導入を検討中 											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>主要指標</th> <th>計画策定時 (H26年度) 数値</th> <th>H28年度 実績値</th> <th>H32年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○県立3病院の医療情報システムの統一</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>※平成30年度</td> </tr> </tbody> </table>	主要指標	計画策定時 (H26年度) 数値	H28年度 実績値	H32年度 目標値	○県立3病院の医療情報システムの統一	—	—	※平成30年度								
	主要指標	計画策定時 (H26年度) 数値	H28年度 実績値	H32年度 目標値													
○県立3病院の医療情報システムの統一	—	—	※平成30年度														
<p>各種医療器械、医薬品、医療材料等の共同購入（交渉）について、徳島大学病院や徳島県鳴門病院との連携を充実し、購入費用の低減に取り組みます。</p>					<ul style="list-style-type: none"> ・複数病院で購入する医療器械（フラットパネルディテクタ、ストレッチャー）について、本局において入札執行し、事務の効率化を図るとともに費用の削減に努めた。 ・医薬品について、原則として試薬を除くすべての医薬品における3病院の共同購入に加え、平成26年度より鳴門病院も含めた共同交渉を実施し、スケールメリットによる費用の削減を図った。 ・総合メディカルゾーン構想による徳島大学病院と共同交渉については、これまでの医薬品に加え、平成28年度には診療材料のうち共通して使用する金額の上位品目について、新たに共同交渉を実施し、更なる費用の削減を図った。 ・「海部・那賀モデル」において、衛生材料等の共同交渉を実施するなど、経営面における地域の公立病院と連携した医療提供体制の構築に貢献した。 ・医薬品、診療材料の標準化を進めるため、3病院の物品管理システムの統一的な運用に向けた準備に着手した。平成29年度には、3病院のネットワーク化やマスタ統一等の整備を行い、より一層の材料の標準化と事務の効率化を図る。 												
⑧ 医療器械等の共同購入の推進	<table border="1"> <thead> <tr> <th>主要指標</th> <th>計画策定時 (H26年度) 数値</th> <th>H28年度 実績値</th> <th>H32年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○医薬品の採用品目数 【県立3病院全体】</td> <td>1,869品目</td> <td>1,757品目</td> <td>1,000品目以下 ※平成30年度</td> </tr> <tr> <td>○医療材料の共同購入品目数 【県立3病院全体】</td> <td>168品目</td> <td>193品目</td> <td>250品目</td> </tr> </tbody> </table>	主要指標	計画策定時 (H26年度) 数値	H28年度 実績値	H32年度 目標値	○医薬品の採用品目数 【県立3病院全体】	1,869品目	1,757品目	1,000品目以下 ※平成30年度	○医療材料の共同購入品目数 【県立3病院全体】	168品目	193品目	250品目				
主要指標	計画策定時 (H26年度) 数値	H28年度 実績値	H32年度 目標値														
○医薬品の採用品目数 【県立3病院全体】	1,869品目	1,757品目	1,000品目以下 ※平成30年度														
○医療材料の共同購入品目数 【県立3病院全体】	168品目	193品目	250品目														

主要施策2

「医療機能の分化と連携の実現」に向けた取組

取組の方向性

各県立病院は、基幹病院としての中心的役割や政策的な医療を担うことにより、地域における効率的かつ質の高い医療提供体制の姿である「医療機能の分化と連携の実現」に向けて取り組みます。

自己評価

A

主要施策項目	施策の概要	進捗状況				平成28年度実績の説明																													
		達成	順調	努力	その他																														
		◎	○	△	—																														
(1) 高度先進医療・臨床研究の充実	<p>県立3病院において、高度技術を要する内視鏡手術、鏡視下手術、インターベンション医療（連続血管撮影装置等を利用した血管内治療法）、脳卒中における血栓溶解療法（t-PA療法）等、積極的な医療の推進を図ります。</p> <p>また、今後とも高度医療機器の計画的な整備を行い、効率的な使用や地域医療連携においても一層の活用を図ります。</p>		○			<p>【中央病院】 高度医療機器については、計画的な整備を進め、平成28年度においては、整形外科・脳神経外科手術支援システムを導入するとともに、リニアックやPET-CT等による高精度な治療や検査の推進に取り組んだ。 ・内視鏡下手術支援ロボット：81件（H27年度：61件）、・MRI（磁気共鳴断層撮影装置）：2台、単純MR5,772件（H27年度：5,759件）、造影MR1,107件（H27年度：1,053件） ・PET-CT：1,292件（H27年度：1,396件）、・256列CT（X線コンピューター断層撮影装置）：単純CT17,604件（H27年度：17,670件）、造影CT5,251件（H27年度：5,232件）、冠状動脈造影CT325件（H27年度：455件） ・リニアック（放射線治療装置）：2台4,220件（うち高精度放射線治療275件）（H27年度：2台6,116件（うち高精度放射線治療216件））</p> <p>【三好病院】 ・内視鏡手術、鏡下手術、脳卒中における血栓溶解療法（t-PA療法）等、標準化を目指し、積極的な医療の推進に努めた。 ・県内の公的病院では初となる専門的な緩和ケア病棟を開設しており、県西部で唯一の「地域がん診療病院」として、がん治療：手術・化学療法・放射線治療による質の高い治療の推進に努めた。 ・MRI（磁気共鳴断層撮影装置）：1台、単純MR：2,630件（H27年度：2,563件）、造影MR：208件（H27年度：213件） ・CT（X線コンピューター断層撮影装置）：2台、単純CT：7,983件（H27年度：8,537件）、造影CT：954件（H27：957件） ・リニアック（放射線治療装置）：1台、923件（H27年度：103件）、・がんの化学療法：外来：538件（H27年度：671件）、入院：151件（H27年度：88件）</p> <p>【海部病院】 ・脳神経外科分野のt-PA療法については、治療効果が高いことから、今後とも積極的に活用していきたい。 ・マルチスライスCTシステム：平成29年度導入、・MRI：脳神経外科を中心に活用 ・がんの化学療法：外来化学療法加算2の施設基準届出</p>																													
(2) 地域医療連携の充実	<p>県立3病院は、地域の医療機関と適切な役割分担と連携を図り、「地域連携クリティカルパス」の積極的な運用により、地域医療全体の最適化に向けた効率的な取組を実施するほか、県立3病院の地域医療連携部門相互の連携強化を図ります。</p> <p>また、医療、看護、介護、福祉との連携を深め、かかりつけ医に協力をいただきながら、相談体制の充実等、住み慣れた地域で安心して療養生活が送れるよう支援します。</p> <p>さらに、三好病院及び海部病院においては、地域における在宅医療の充足状況や自宅での看取りに対するニーズを把握し、住民の在宅での療養生活や看取りが可能となるよう、開業医との連携はもとより、自らも訪問診療、訪問看護等の在宅医療を推進します。</p>			△		<p>【中央病院】 ・平成27年度に患者支援センターを設け、院内外の多職種（医師・ケアマネ・看護師・MSW・薬剤師・栄養士等）と連携し、入院前から退院まで一貫した患者支援を行っている。（・紹介患者件数：19,932件、・紹介率：82.9%、・逆紹介率171.0%） ・医療・福祉等の相談業務相談件数：16,700件、・地域医療連携事業講演会：14回（医師による講演等） ・地域連携バス：9つ（肺がん、大腸がん、胃がん、大腿骨頸部骨折、食道がん、子宮体がん、乳がん、脳卒中、急性心筋梗塞） ・連携医登録：529名</p> <p>【三好病院】 ・地域中核病院機能の取組として、つるぎ町立半田病院・三好市立三野病院との間で、平成20年10月に「徳島県西部保健医療圏における適正な医療を確保するための協定書」を締結し、3病院間で医師の派遣等の協力体制を実施した。 （・内科：三野病院→三好病院（週1回派遣）・整形外科：三好病院→三野病院（週1回派遣）・産婦人科：三好病院→半田病院（月2回宿直）） ・地域医療支援病院として、地域の医療機関等の連携に努めた。（地域医療支援病院の承認：平成26年3月14日） （紹介患者件数：3,894件（対前年度比：104.3%）・紹介率：51.8%（前年度：51.1%）・逆紹介率：85.1%（前年度：98.8%）） ・医療・福祉等の相談業務相談件数：6,335件、・地域医療連携事業講演会：3回（医師による講演等） ・連携医登録：73名</p> <p>【海部病院】 ・平成22年4月の「地域支援室」の設置以来、利用者のニーズ把握と地域の医療機関、施設等との連携強化を図るとともに、紹介患者や退院患者への「訪問診療」や「訪問看護」などの在宅支援を行なうとともに、在院日数の短縮に繋げてきた。 （・紹介患者件数：1,845件、・紹介率：34.6%、・逆紹介率36.6%） ・地域医療連携担当者意見交換会：年2回 ・地域連携バス：3つ（肺がん、脳卒中2） ・病院移転に際して、担当医一覧表を全戸配布 ・連携医登録：19名</p>																													
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>主要指標</th> <th>計画策定時 (H26年度) 数値</th> <th>H28年度 実績値</th> <th>H32年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">○紹介率</td> <td>【中央病院】</td> <td>79.8%</td> <td>82.9%</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>【三好病院】</td> <td>40.4%</td> <td>51.8%</td> <td>60%</td> </tr> <tr> <td>【海部病院】</td> <td>28.8%</td> <td>34.6%</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">○逆紹介率</td> <td>【中央病院】</td> <td>138.8%</td> <td>171.0%</td> <td>180%</td> </tr> <tr> <td>【三好病院】</td> <td>96.6%</td> <td>85.1%</td> <td>120%</td> </tr> <tr> <td>【海部病院】</td> <td>33.1%</td> <td>36.6%</td> <td>40%</td> </tr> </tbody> </table>	主要指標	計画策定時 (H26年度) 数値	H28年度 実績値	H32年度 目標値	○紹介率	【中央病院】	79.8%	82.9%	90%	【三好病院】	40.4%	51.8%	60%	【海部病院】	28.8%	34.6%	40%	○逆紹介率	【中央病院】	138.8%	171.0%	180%	【三好病院】	96.6%	85.1%	120%	【海部病院】	33.1%	36.6%	40%				
主要指標	計画策定時 (H26年度) 数値	H28年度 実績値	H32年度 目標値																																
○紹介率	【中央病院】	79.8%	82.9%	90%																															
	【三好病院】	40.4%	51.8%	60%																															
	【海部病院】	28.8%	34.6%	40%																															
○逆紹介率	【中央病院】	138.8%	171.0%	180%																															
	【三好病院】	96.6%	85.1%	120%																															
	【海部病院】	33.1%	36.6%	40%																															

主要施策項目	施策の概要	進捗状況				平成28年度実績の説明
		達成	順調	努力	その他	
		◎	○	△	—	
(3) ホスピタルカーの運行	中央病院では、高度急性期病院として、地域中核医療機関からの要請により、各科の専門医師が同乗し重症患者に対する治療を行いながら中央病院まで搬送する「ホスピタルカー」を導入・運行し、救命率の向上を図ります。		○			【中央病院】 ・重症患者の病院間搬送等を行うため、人工呼吸器、自動心臓マッサージ器、モニター付除細動器、携帯型モニター、ポータブル吸引器を備えた高規格救急車を導入した。
(4) 地域に不足する機能への取組の検討	三好病院と海部病院では、2025年(平成37年)における診療圏の医療提供状況を見定めながら、在宅医療(訪問診療・訪問看護・訪問リハ)への取組を推進するとともに、検診等健康保持に関する業務や、災害時対応も見据えた透析業務等の事業展開について検討します。		○			【三好病院】 ・地域医療構想において、西部圏域の2025年度の病床必要数は、高度急性期病床：47床、急性期病床：274床、回復期病床：310床、慢性期病床：377床となっており、平成28年度の病床機能報告の結果によれば、高度急性期病床が37床、回復期病床が88床が足りないと予測されている。当院としては、高度急性期及び急性期病床を維持するとともに、地域医療構想調整会議における議論をふまえて、西部圏域で不足している回復期病床への一部病床の転換について検討している。 【海部病院】 ・医療圏内に「療養系の病床」がないことから、平成21年度より「訪問介護」を、平成22年度より「訪問診療」をそれぞれ開始し、平成23年度には在宅看護取りを行い、件数は徐々に増加している。(H24年度：12件、H25年度：10件、H26年度：21件、H27年度：22件、H28年度：18件) ・今後については、地域ニーズのある「回復期型病床の導入」についても検討を行いながら、地域の医療機関、介護施設等と連携を強化していくことで、地域住民が住み慣れた地域で、少しでも長く過ごしていただけるための取組を続けていく。
(5) 地域医療機関・介護施設等に対する支援の充実	県立3病院がこれまで培ってきた感染症対策や様々なケアについての専門的知識を、医療スタッフが積極的に地域の関係機関に向けて情報発信し、各地域における医療課題の解決に向けた支援に取り組めます。		○			【中央病院】 ・感染症対策については、ICD・ICNといった感染対策の専門スタッフにより構成される当院の感染制御チームが中心となり、地域の10の医療機関と合同で、院内感染対策にかかるカンファレンスを年4回実施 ・当院を含む3つの医療機関の間で相互に訪問を行い、院内感染対策に関する評価を行っている。 【三好病院】 ・医療機関や介護施設等の職員を対象とした保健所主催の研修会等で、感染管理認定看護師が講師を務める等、地域の感染対策に寄与した。 ・医療機関や介護施設、行政機関の職員と地域の課題について話し合う「ケアカフェよし」を開催し、現状や課題等の把握に努めた。また、退院後訪問指導を通しての情報共有やスタッフへの指導等にも努めた。 【海部病院】 ・ICTは、感染管理認定看護師を中心に毎月委員会を開催し、院内ラウンドやマニュアルの追加・見直しを行い、院内感染防止対策に努めた。 ・感染防止対策加算1の医療機関とは相互評価を実施、加算2の医療機関とは、年4回のカンファレンスを実施するなど、地域全体での感染対策のポトムアップを図った。さらに、阿南保健所や美波保健所と連携し、地域の医療機関や介護施設等向けの感染対策研修会を企画・開催している。海部病院においては、感染管理認定看護師が出前講座を行った。 ・「海部・那賀モデル」において、職員向けの研修会を開催した。
(6) 精神科医療ニーズの高まりに対する対応	一般病床入院患者のせん妄や抑うつなどに対応するため、精神科を有する中央病院においては「精神科リエゾンチーム」による診療に取り組み、三好病院においては地域の精神科病院の協力を得たケアを行います。また、海部病院では、認知症患者に対する専門外来に引き続き取り組めます。		○			【中央病院】 ・多職種により精神科リエゾンチームを編成し、身体疾患に伴う精神症状や心理的問題に精神科医・精神科認定看護師・精神保健福祉士・臨床心理士が介入を行っている。また、定期的なカンファレンスで精神科医師や看護師・医療ソーシャルワーカーと情報共有等の連携を図り、よりよい医療が提供できるよう努めた。 【三好病院】 ・高齢化に伴う認知症対策として認知症ケアサポートチーム(オレンジチーム)を立ち上げ、他職種による集合研修を行い、院内デイケアや院内ラウンド等を行い、高齢者や認知症患者に対し適切な医療や看護が提供できる取り組みを行った。今後、地域の精神科医とも連携を図りながら、積極的な認知症ケアの取り組みを行っていく。・院内デイケアの開始(H28.6~週1回)(H29~週2回) 【海部病院】 ・毎週月曜日と木曜日の午後、完全予約制で認知症外来を実施している。
(7) 住民に開かれた病院運営	「開かれた病院」として、地域の住民が病院運営に参加いただける機会を設け、各病院の現状を明らかにするとともに、地域医療を共に考え、共に支えていただけるような関係づくりに努めます。 また、各病院の機能や特性に応じた疾病・療養に関する公開講座の開催や、病院でのボランティア等地域住民との協働に取り組めます。		○			【中央病院】 ・徳島ガン対策センター公開講座「あなたの家にかえろう」を開催(H28.6、H29.2) ・オープンホスピタルを開催し、県内高校生が参加(H28.11) ・糖尿病と肝臓がんに関する県民公開講座を開催(H28.11) ・多数傷病者受入訓練を実施し、看護学生が参加(H28.9) ・病院ボランティアによる外来患者に対するホールでの案内や車椅子利用者の介助、生花の飾り付けや植木の手入れ、病院図書室における図書の貸出等 【三好病院】 ・地域住民の代表である「三好病院を応援する会」の総会に出席し関係者と意見交換を行った。 ・市民公開講座を開催するとともに、平成28年度から地域の公民館等で住民を対象とした三好病院出前講座「生き生き講座」を行い、地域に開かれた病院づくりに努めた。 ・市民公開講座 2回(①平成28年6月11日 放射線治療について 参加者約90名、②平成28年10月30日 認知症ケアについて 参加者約200名) ・生き生き講座(15回 約540名参加) ・地域の中学生を対象にオープンホスピタルを開催し、学生の医療現場への興味を深めることに寄与した。(平成28年8月6日 16名参加) ・地元自治会等の開催した救命措置や災害に関する勉強会で講演等を行い、地域の住民への災害時等の対応について啓発した。 ・病院ボランティアを受け入れ、ボランティアによる屋上庭園の手入れや季節の飾り等を通して、患者が少しでも不安を解消し、安心して治療を受けられる環境を地域住民とともに醸成していく努めた。(ボランティア登録：個人17名、団体4団体) 【海部病院】 ・海部病院経営戦略会議に、地域住民によって設立された団体の代表者等の参加を今後継続して実施していく。 ・海部・那賀モデルによる公立病院の診療支援を行っており、診療支援の拡大と海部病院の看護師について交流研修の受入開始。 ・海部高校への出前講座 ・糖尿病教室の開催 ・病院ボランティアの受入：病院敷地内の草抜や剪定など ・職員や利用者に対するアンケート調査の継続 ・医療機関・介護機関向け「地域医療連携便り」の配布を開始

主要施策 3 「医療の質の向上」に向けた取組

取組の方向性

県立病院で提供する医療の「治療成果」・「安全性」・「患者満足度」など「医療の質」の向上に向けて取り組みます。

自己
評価

A

主要施策項目	施策の概要	進捗状況				平成28年度実績の説明																		
		達 成	順 調	努 力	そ の 他																			
		◎	○	△	-																			
(1) チーム医療の推進	<p>各病院において高い専門性を有する医療スタッフが、互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供する「チーム医療」に引き続き取り組みます。</p> <p>また、各チーム合同によるカンファレンスや研修会を積極的に実施します。</p> <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">主要指標</th> <th style="width: 15%;">計画策定時 (H26年度) 数値</th> <th style="width: 15%;">H28年度 実績値</th> <th style="width: 15%;">H32年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○薬剤管理指導件数</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">【中央病院】</td> <td style="text-align: center;">11,961件</td> <td style="text-align: center;">12,558件</td> <td style="text-align: center;">16,000件</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">【三好病院】</td> <td style="text-align: center;">3,841件</td> <td style="text-align: center;">3,358件</td> <td style="text-align: center;">4,000件</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">【海部病院】</td> <td style="text-align: center;">1,905件</td> <td style="text-align: center;">1,772件</td> <td style="text-align: center;">1,900件</td> </tr> </tbody> </table>	主要指標	計画策定時 (H26年度) 数値	H28年度 実績値	H32年度 目標値	○薬剤管理指導件数				【中央病院】	11,961件	12,558件	16,000件	【三好病院】	3,841件	3,358件	4,000件	【海部病院】	1,905件	1,772件	1,900件	○		<p>【中央病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NST（栄養サポートチーム）、褥瘡対策チーム、ICT（院内感染制御チーム）、緩和ケアチーム、糖尿病チーム、呼吸ケアサポートチーム、口腔ケアチーム、精神科リエゾンチーム、フライトチーム、ICLSチーム、DMAT、DPATなどが医師をリーダーとしてチームカンファレンスや研修会を定期的に開催し、チーム力を高め積極的に活動した。 ・チーム活動の一環として、糖尿病教室やがん患者教室、作業療法内疾病教育の会、アルコールミーティングなどの患者教室を定期的に開催し、地域に貢献している。医師、言語聴覚士、看護師、管理栄養士が協働し、嚥下テスト、適切な食事選択、食事援助をおこない経口摂取を推進し、患者さんのQOLの向上に努めている。 <p>【三好病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各職種の代表者で組織された各種チームを設置し、それぞれの専門性を活かし、良質で安全な医療の提供に取り組んだ。 ・栄養サポート、SMT（安全管理）、化学療法推進、緩和ケア推進、褥瘡対策・排泄ケア、呼吸ケア、放射線治療推進等のチームが、職種間の垣根を越えて、情報交換や相互連携を図り、情報を共有し合いながらファインチームワークの精神でチーム医療に努めている。 ・また、多職種参加による患者カンファレンスの実施や各委員会やチーム主催のスキルアップ研修会を実施する等、チーム医療を積極的に推進した。 ・平成28年度には、看護外来（ストーマ、がん）や認知症ケアチームによる院内デイケアの開始等、専門性を有するスタッフにより、患者の状況に的確に対応した医療の提供に努めた。 ・服薬指導の実施：3,358件（H27：4,230件）・栄養指導の実施：841件（H27：720件） <p>【海部病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的にカンファレンスを行い、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、MSW等を含め、多角的な視野に立った意見交換を行っている。 ・ICTやNST・褥瘡対策チーム、糖尿病対策チーム、災害対策ワーキンググループ等の多職種チームが院内で活動しており、職種間連携もスムーズに行われている。
主要指標	計画策定時 (H26年度) 数値	H28年度 実績値	H32年度 目標値																					
○薬剤管理指導件数																								
【中央病院】	11,961件	12,558件	16,000件																					
【三好病院】	3,841件	3,358件	4,000件																					
【海部病院】	1,905件	1,772件	1,900件																					
(2) 病院機能評価の継続受審	<p>医療の質の更なる向上や医療の透明性を確保するため、（公財）日本医療機能評価機構による機能評価を継続的に受審し、組織的な課題把握と改善を図ります。</p>	○		<p>【中央病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年1月26日から27日に新評価項目3rd Ver. 1.0による更新認定（3回目）及び副機能の初回認定を受審し、平成27年3月に認定された。（認定期間：H27.3.28～H32.3.27）現在は、規定の内容の実施を促進している。認定開始から3年目となる平成29年3月に「期中の確認」として質改善の取り組みの状況を報告した。 <p>【三好病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年4月1日に3rd Ver. 1.1による更新認定を受け、平成28年12月2日に副機能として、緩和ケア病棟の初回認定を受けた。次回更新時に向け、更なる改善に取り組み、医療の質の向上に努めていく。 <p>【海部病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度に「病院機能評価 Ver. 6.0」を受審し、平成25年1月28日より5年間の更新認定を受けた。平成30年1月の更新に向け、病院機能評価認定推進委員会を立ち上げ、業務改善等に取り組んでいる。 																				

主要施策項目	施策の概要	進捗状況				平成28年度実績の説明
		達成	順調	努力	その他	
		◎	○	△	—	
<p>(3) 医療安全対策の推進</p>	<p>医療事故の未然防止、発生した事故の影響拡大と再発の防止に向けて、ヒヤリハット事例の収集・分析により予防対策の充実を図るなど、医療安全管理者を中心とした組織的な医療安全対策に取り組みます。</p> <p>また、医療安全管理者養成研修会等の受講機会を確保すると共に、苦情・クレーム対応を含めた医療安全研修を組織的に実施し、危機管理意識の向上と県立病院における医療安全文化の醸成に努めます。</p>		○			<p>・各県立病院の医療安全対策に関する取組や、ヒヤリハット事例の分析、再発予防などの意見交換を行い、医療安全対策の充実を図るため、医療安全担当者会を開催した。(平成28年11月9日)</p> <p>・県立病院で発生した徳島県立病院医療事故公表基準に規定する個別公表医療事故及び包括的公表医療事故について、原因の分析・究明及び再発防止策等の評価・提言を行い、組織的な医療事故防止に資するため、徳島県立病院医療安全対策委員会を開催した。(平成29年2月27日開催)</p> <p>【中央病院】</p> <p>・「安全への高い意識を持ち、安全文化を醸成する。チームワークで、安心・安全な医療・看護を提供する。」を目標に医療事故の未然防止、発生した事故の影響拡大防止と再発防止に向けて、勉強会・研修会を開催し、積極的な参加や安全への意識の向上に取り組んだ。また、院内での研修に業務の都合等で参加できない者に対しては、研修を録画し、院内WEB上で研修を受けられるようにした。</p> <p>・医療安全管理者養成研修には複数の職員を参加させ、安全文化を根付かせるリーダーとなる職員の育成に力を入れた。</p> <p>・医療事故想定訓練では、多職種が関わる場面を想定し、具体的な事例を示しながら予防対策について全職員を対象に周知徹底に努めた。</p> <p>・暴言暴力対策として、外部講師を招いて研修会を開催し、不当要求時の安全で具体的な対応について学び個々のスキルアップを図った。</p> <p>【三好病院】</p> <p>・医療安全文化を全院的に広め、事故の未然防止の徹底を図るため、勉強会・研修会を開催し、危険予知と再発防止への意識向上を図った。</p> <p>・特に平成28年度は、平成27年度途中から導入したRCA分析を現場に普及することを目的に6回のRCA勉強会を実施した。</p> <p>・医療安全管理委員会：月1回、セーフティ・メッツ・メド・チーム・ミーティング：月1回、ヒヤリ・ハット報告会：月1回</p> <p>・院内研修(全職員を対象とした研修：年2回、医療安全に関する勉強会：年6回、医療事故想定訓練：年1回 等)</p> <p>・近年増加しているクレーム等への対応について、研修会を開催し、スキルアップを図り、初期対応等の周知に努めた。想定訓練においても、インフォームドコンセントの重要性にポイントをおいた事例に対して訓練を実施し、苦情・クレーム発生時の対応について具体的な学びの場とした。また、患者・家族からの暴力・暴言に対応するため、「職員への暴力・暴言対応マニュアル」を策定した。(平成29年3月)</p> <p>【海部病院】</p> <p>・院内「医療安全推進委員会」において、毎月、院内各部署のラウンドを行い、安全管理等が適切に実施されているかを確認し、問題点等の洗い出しを行うとともに、毎月開催している「医療安全対策委員会」や「ヒヤリハット報告会」に併せてラウンド報告を行い、全職員が共通認識・情報の共有を図ることにより、重大な事故発生防止に努めた。また、交替勤務の職員も多いことから、全職員を対象にした「院内医療安全研修会」を年15回実施した。</p>
<p>(4) 院内感染対策の推進</p>	<p>良質・適切な医療提供の基盤となる院内感染対策について、院内感染対策チーム(ICT)を中心とした院内研修会や院内ラウンドの実施により、職員の感染対策に関する意識・知識の向上を図り、予防と発生時の速やかな対応に努めます。</p> <p>また、地域の医療機関や行政機関と連携し、地域の感染対策の向上に寄与します。</p>		○			<p>【中央病院】</p> <p>・平成28年4月に感染症制御センターが設立され、感染症科も新設されたことにより、感染制御チームと連携し、感染対策についても「強くてやさしい病院」となるよう活動を推進している。</p> <p>・カンファレンスによる抗菌薬適正使用の推進、マニュアルの遵守状況確認ラウンド、毎月全職員に対して研修会の開催、職員(委託職員を含む)のワクチン接種、感染防止対策加算にかかる相互チェックおよび合同カンファレンスの開催を実施した。</p> <p>・新たな取り組みとして、カテーテル関連感染予防についてサーベイランスの実施と適応のないカテーテルの早期抜去を推進している。</p> <p>【三好病院】</p> <p>・ICT事務局(医師、看護師、検査技師、薬剤師)を中心に、週1回のラウンドやミーティングを実施し、耐性菌等サーベイランスや抗菌薬適正使用の推進や感染対策の改善に努めた。</p> <p>・研修会は委託業者別と全職員対象に延べ17回開催し、うち2回は院外講師を招聘し地域の関係機関にも案内を行った。手指衛生を継続して啓発のために毎月1日を「手指衛生の日」として全職員を対象に手洗いチェックを実施し延べ323名が参加した。</p> <p>・感染防止対策加算1医療機関(吉野川医療センター、東徳島医療センター)と相互評価を行った。加算2医療機関5施設と年4回のカンファレンスをはじめ、地域からの相談や講演活動等を通して、地域の感染対策の向上に寄与した。</p> <p>【海部病院】</p> <p>・毎月、院内感染防止対策委員会とICT委員会の定期開催を行っている。</p> <p>・院内感染防止対策委員会では、院内一般細菌検出状況の報告、ICT委員会からの報告・提案事項の検討、職業感染対策についての提案と報告、厚生労働省及び県保健製薬環境センターからの感染症情報等を活用し、流行状況などの報告と注意喚起を行っている。</p> <p>・ICT委員会では、院内ラウンドを毎月行い、感染対策の遵守状況の把握と改善、マニュアル見直し等を行っている。</p> <p>・職員研修においては、職員の感染対策に関する意識・知識の向上を目的に、年2回以上開催し、出席率の向上に努めている。さらに阿南保健所や美波保健所と連携し、地域医療機関や介護施設等向けの感染対策研修会を企画・開催している。海南病院においては、感染管理認定看護師が出前講座もを行っている。</p>

主要施策項目	施策の概要	進捗状況				平成28年度実績の説明
		達成	順調	努力	その他	
		◎	○	△	—	
(5) 患者・職員の満足度の向上	<p>患者からの様々な相談や要望に適切に対応し、安心して診療・治療が受けられるよう、総合相談の窓口において十分な患者サポートに努めます。</p> <p>毎年度、患者満足度調査を実施し、調査結果の分析・検証と組織内での共有化を図り、ひとつでも多く速やかに改善に結びつけ、患者さんにより一層満足いただけるよう取り組みます。</p> <p>また、病院職員が個の人間性を高め、個の能力を伸ばし、患者中心の医療を行うことができるよう、働きやすい環境の整備を図ります。</p>		○			<p>・次世代育成支援対策推進法が、法改正により10年延長されたことなどを踏まえ、病院局職員を含む県職員が対象となる「徳島県特定事業主行動計画」を見直し、平成27～31年度までの新たな計画を策定した。引き続き、子育てと仕事の両立を支援し、働きやすい職場環境づくりに努めたい。</p> <p>【中央病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「総合相談窓口」を1階総合案内を設置し、メディカルコンシェルジュを配置。メディカルコンシェルジュは、患者さんからの病気、受診等に関する相談や質問、専門部署への案内、クレーム対応なども担っている。 平成28年11月から12月にかけて患者満足度調査を実施し、調査結果については院内WEBや院内の掲示板に掲示して情報共有するとともに、病院ホームページにも掲載した。 待ち時間に関しては、外来委員会で外来患者待ち時間調査を実施、待ち時間短縮を図るために予約枠の見直しや待ち時間表示方法等の改善を行った。 がん化学療法等で食欲のない患者さんに対し、随時ベッドサイドにて摂食状況を聞き取り、必要な栄養をできるだけ経口で摂取していただき、栄養状態の改善に努めるよう、個別対応食に力を入れている。また、毎月19日前後を「食育の日」として、患者さんに県産品の提供をアピールしている。平成28年度は12回実施、患者さんに県産品アピールカードを配布した。院内保育所では病児保育を実施するとともに、幼稚園帰りに利用できる半日保育や1日単位で利用できる臨時保育も設けている。 <p>【三好病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者満足度調査を実施し、総合評価として概ね満足との回答を得たが、待ち時間等は昨年度の満足度を下回るものとなった。今後、改善策等を検討実施し、患者満足度の向上に努めていく。 また、病院に勤務する全ての職員（委託業者含む）を対象に接遇研修を実施し、接遇能力の向上を図った。 経営戦略会議に、市・町・保健所に参加してもらい、地域住民の声を取り入れている。 病院食については、病院食を治療の一環として、できるだけ残さず食べていただけるよう、病棟訪問や病院給食へのアンケート調査（年2回）などを実施している。季節感や楽しさを感じていただくために、お花見や七夕などの季節催しや祝祭日の行事食、誕生日カードの添付等に加え、県産食材をアピールした食事「あわっこの日」を月1回（毎月第4日曜日）設けている。 <p>【海部病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外来満足度調査については、毎年度2月から3月に実施していたが、平成28年度については、新病院への移転を控え、トイレ設備等、各種設備が更新されるため、新病院へ移転後、6月に実施することとした。 接遇については、外部講師を招へいで院内研修会を開催し、職員の意識向上に努めた。今後は、院内の業務改善委員会の充実を図り、外来アンケート調査のほか、入院アンケート調査、職員満足度調査、住民アンケート調査、たばこのアンケート調査等を継続して実施し、現状把握と改善への取り組みにより、地域住民が利用しやすい施設としていきたい。
(6) 患者からの信頼を得る医療の推進	<p>患者自身やご家族が治療の内容に納得し、安心して治療に専念できるよう、病状や治療計画等について十分に説明する「インフォームドコンセント」に引き続き取り組みます。</p> <p>治療方針の選択にあたって主治医以外の専門医の意見を聞く「セカンドオピニオン相談」の更なる周知を図り、患者自身はもとよりご家族の不安を解消し、治療に関する自己決定の支援に努めます。</p> <p>診療結果や治療成績、看護指標などの「臨床指標」について、ホームページ等を通じて県民に公表し、医療の質の向上に努めます。</p>		○			<p>【中央病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者が納得して治療を受けるための「インフォームドコンセント」を徹底し、誠意を持って説明に取り組んでいる。 平成18年11月1日から、「セカンドオピニオン外来」を開設しており、がんまたはその疑いのある患者さんやご家族からの相談を受けている。 「臨床指標の公表」については、ホームページにおいて、「核となる医療機能」を掲げ、重点的に取り組むとともに、「医療の質の指標（クリニカルインディケーター）」や「看護指標」の実績を公開し、医療の質の向上に努めている。 <p>【三好病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成29年1月に、三好病院の理念「誠実で信頼される病院になる」を職員の投票により決定し、その理念に基づき、医療の質の向上に努めている。 患者の治療に関わるあらゆる情報を確実に伝え、同意を得る「インフォームドコンセント」の手続について、各委員会等あらゆる機会を通じて院内統一を図っている。 地域医療センターを窓口とする「セカンドオピニオン外来」を設置、がん又はその疑いのある患者さん等からの相談を受ける窓口を設置している。 「臨床指標の公表」については、入院・外来患者数等の病院の基礎的情報や退院患者の集計を基にした統計データをホームページに掲載することにより、県民や当院を受診する患者に当院の病院機能、医療情報の可視化を行い、医療の質の向上に繋がるよう努めている。 <p>【海部病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者が納得して治療を受けるための「インフォームドコンセント（説明と同意）」を徹底し、誠意を持って説明に取り組むとともに、患者の不安解消や治療に関する自己決定を支援する「セカンドオピニオン相談」について、地域支援室が窓口となり、相談に応じるとともに他院への紹介等を引き続き行う。今後は、外来・病棟等に、セカンドオピニオンについての案内を掲示し、利用者へ周知を図っていきたい。 「臨床指標の公表」については、科別手術件数、科別入院・外来患者数、救急患者数、科別入院平均在院日数、病種別病床利用率、地域別退院患者数、退院死亡率などの指標をホームページで公開している。

主要施策項目	施策の概要	進捗状況				平成28年度実績の説明
		達 成 ◎	順 調 ○	努 力 △	そ の 他 -	
(7) 広報活動の充実	<p>病院局や各病院のホームページを充実し、県民には各病院の診療概要や特徴、最近の取組などをできる限り分かりやすく提供できるよう努めます。</p> <p>また、地域医療への取組状況に関する情報等を積極的に発信するとともに、各病院広報誌や各自治体広報誌を通じた広報活動も積極的に実施します。</p>		○			<p>・ホームページの充実として、病院の概要やイベント情報などの新着情報について積極的な情報提供に努めた。</p> <p>・看護師及び助産師並びに臨床研修医の募集に関するパンフレットを作成した。</p> <p>【中央病院】</p> <p>・病院ホームページをリニューアルし、見やすく解かりやすくするとともに、地域医療連携や臨床研修医、イベント等についても掲載し、親しみやすい情報の提供に努めた。この他、広報戦略推進員による病院での様々な取組の紹介、また、地域連携のマンズリーFAXや病院広報誌ナニージャ等により、情報提供を積極的に実施している。</p> <p>【三好病院】</p> <p>・ホームページの充実として、イベント情報等の新着情報の積極的な情報提供に努めるとともに、広報誌を年6回作成し、関係機関や来院者に配布するし、情報提供を積極的に行った。</p> <p>・また、地域がん診療病院として、パンフレットを作成し、関係機関や来院者に配布し、情報提供に努めた。</p> <p>【海部病院】</p> <p>・病院ホームページには、診療案内や各種指標等を掲載し、患者サービスの向上に努めるとともに、イベント等の情報についても掲載し、患者や医療関係者に積極的に情報発信を行った。</p> <p>・また、課題である医師確保に向けて、総合診療医を目指す後期研修医の育成プログラムである「南阿波総合医・家庭医プログラム」を重点的に紹介・発信している。</p> <p>・広報誌を年2回を発行し、海部郡3町の広報誌に折り込む等により、地域住民等に配布し、病院のトピックス等の情報を発信した。なお、広報誌の内容については、ホームページにも掲載している。</p>
(8) 快適な病院利用環境の整備	<p>病院利用者のより一層の利便性向上を図るため、総合メディカルゾーン本部内の主要道路となるメディカルストリートを整備し、徳島大学病院側の外構整備と合わせた駐車場の共同利用及び路線バスの構内乗り入れに取り組みます。</p> <p>また、海部病院では、高台への移転に併せて、路線バスの構内乗り入れを行うとともに、外来駐車場の必要台数確保のため、立体駐車場を整備します。</p>		○			<p>【中央病院】</p> <p>・MZ構想外構工事に着手した。また、徳島大学病院との駐車場の共同利用及び路線バスの構内乗り入れについては、徳島大学病院等、関係機関と協議を実施した。</p> <p>【三好病院】</p> <p>・平成28年度には、北側駐車場が完成し、来院者の利便性が向上した。また、低層棟においては、床面の張り替えを行い、快適な病院利用環境の整備に努めた。</p> <p>【海部病院】</p> <p>・高台への移転改築工事については、平成29年1月31日に竣工し、4月15日の完成記念式典を経て、5月8日に開院となった。</p> <p>・開院に併せて路線バス(上下16便)が構内乗り入れを開始、また、立体駐車場を整備し合計183台分の駐車スペースを確保した。(旧病院の駐車場は180台)</p>

主要施策 4 「経営の効率化」に向けた取組

取組の方向性

継続的・安定的な医療の提供に向け、一般会計からの適切な繰入措置の下で、的確な経営分析に基づく効率的な経営に努め、「収入の確保」と「費用の削減」に向けた取組を推進します。

自己
評価

A

主要施策項目	施策の概要	進捗状況				平成28年度実績の説明															
		達 成	順 調	努 力	そ の 他																
		◎	○	△	-																
(1) 急性期医療の重点化	<p>急性期機能の重点化を図るため、適正な平均在院日数と病床利用率の管理に取り組むとともに、地域の医療機関との連携を推進し、新規入院患者の増加を目指します。</p> <p>中央病院では、「本県医療の中核拠点」としての高度急性期機能の発揮を目指して、新規入院患者数の増加を図るとともに、救命救急病床の運用病床数増加や、日帰り手術の実施に向け取り組みます。</p> <p>三好病院では「四国中央部の拠点」として高度急性期機能並びに急性期医療機能の発揮を目指して、新規入院患者数の増加に取り組めます。</p> <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">主要指標</th> <th style="text-align: center;">計画策定時 (H26年度) 数値</th> <th style="text-align: center;">H28年度 実績値</th> <th style="text-align: center;">H32年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○平均在院日数 【中央病院】 (精神病床及び緩和ケア病床除く) 【三好病院】</td> <td style="text-align: center;">9.7日</td> <td style="text-align: center;">9.9日</td> <td style="text-align: center;">9.6日</td> </tr> <tr> <td>○1日平均新規入院患者数 【中央病院】 (精神病床及び緩和ケア病床除く) 【三好病院】</td> <td style="text-align: center;">30.9名</td> <td style="text-align: center;">30.5名</td> <td style="text-align: center;">33名</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">8.2名</td> <td style="text-align: center;">8.8名</td> <td style="text-align: center;">10名</td> </tr> </tbody> </table>	主要指標	計画策定時 (H26年度) 数値	H28年度 実績値	H32年度 目標値	○平均在院日数 【中央病院】 (精神病床及び緩和ケア病床除く) 【三好病院】	9.7日	9.9日	9.6日	○1日平均新規入院患者数 【中央病院】 (精神病床及び緩和ケア病床除く) 【三好病院】	30.9名	30.5名	33名		8.2名	8.8名	10名	△			<p>【中央病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当院は、高度急性期病院・3次救急病院として、高度な医療機械を導入し、重篤な患者を積極的に受け入れている。 ・外来機能の役割分担について、地域医療機関との連携を推進し、新規患者の確保に努めるとともに、入院期間Ⅰ＋Ⅱに目標を設け、平均在院日数の適正管理に努めた。 <p>【三好病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急性期型病院としての機能の重点化を図るため、平成28年3月から7：1入院基本料の施設基準を取得し、平均在院日数の適正管理に努めた。また、地域の医療機関との連携を推進し、新規入院患者の増加を図った。 ・今後、当院は四国中央部の拠点として、急性期病院としての地域での役割を明確化し、救急入院及び紹介入院による新規入院患者数の増加に取り組み、収益の増加を図っていく。
主要指標	計画策定時 (H26年度) 数値	H28年度 実績値	H32年度 目標値																		
○平均在院日数 【中央病院】 (精神病床及び緩和ケア病床除く) 【三好病院】	9.7日	9.9日	9.6日																		
○1日平均新規入院患者数 【中央病院】 (精神病床及び緩和ケア病床除く) 【三好病院】	30.9名	30.5名	33名																		
	8.2名	8.8名	10名																		
(2) DPC分析による経営戦略の策定	<p>各病院のDPCデータを基にした経営分析を行い、他病院のデータとの比較等の分析を加えて経営戦略の策定に生かします。</p> <p>また、より一層の戦略的な経営展開を図るため、必要に応じて外部コンサルタントの活用を検討します。</p>	○			<p>【中央病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関群について、要件を全て満たしDPCⅡ群病院を維持した。 ・Ⅱ群病院維持及び機能評価係数Ⅱをさらに高めるために、厚生労働省の公開データ及びDPC分析システムを活用したデータを各種委員会で報告し、入院期間の短縮や診療密度の向上などに取組んだ。 ・診断群分類で入院期間が短縮された症例に対して、各診療科と協力し電子パスの適用日数の短縮を行った。 <p>【三好病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度から、DPC対象病院として厚生労働省の実施する「DPC導入の影響評価に係る調査」に参するとともに、全国自治体病院協議会DPCデータ分析事業にも参加している。 ・今後、機能評価係数Ⅱを上げられるよう平均在院日数や地域でのシェア等を分析し、戦略会議等で情報共有していく。 <p>【海部病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厚生省に提出しているDPCデータを用い、適宜分析を行うほか、協議会や研究班への提出もを行い、他の医療機関との分析・比較を実施し、病院経営に役立てている。 ・平成29年2月からの、地域包括ケア病床導入検討においてもDPCデータを用いた分析が一助となった。 ・毎月診療情報管理・コーディングに関する委員会を開催し、適切なコーディングに努め、DPC精度向上に取り組んでいる。引き続き、DPCデータを用いた経営分析、適切なコーディングに関する精度向上に努め、入院診療実績の向上につなげたい。 																
(3) 診療報酬制度への戦略的な取組	<p>適切な医療収益の確保のため、国の医療制度改革の方向性や各病院の医療機能の整備状況に即した新たな施設基準の取得など、診療報酬制度への迅速・的確な対応を図ります。</p> <p>また、医師、診療情報管理士、事務、医事委託業者等によるチームで、査定内容・傾向の分析、「請求漏れ」対策に取り組めます。</p>	○			<p>【中央病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度においては、精神科リエゾンチームを設け、総合入院体制加算を取得するなど、病院収益に大きく貢献する施設基準を届出した。 ・診療報酬請求検討部会を毎月開催するなど、査定結果等を医療スタッフにフィードバックするとともに、特定入院料や救急医療管理加算について、未請求事例の洗い出しを行うなど、積極算定に取り組んだ。 ・これまで紙伝票で行われていた特定入院料や一部加算の算定指示について電子化を図り、請求漏れの防止に努めた。 <p>【三好病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年3月から7：1入院基本料の施設基準を取得し、収益の確保に努めた。 ・診療報酬改定に迅速に対応し、新たな施設基準等の取得に取り組むとともに、請求漏れ・誤りの防止、査定減対策等、請求精度の向上に努めた。 <p>【海部病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度においては、診療報酬制度の改定に伴い、7対1入院基本料の施設基準の維持が困難となってきたため、「地域包括ケア病床」10床を導入し、医療・看護必要度の調整を行うことにより、7対1入院基本料の維持を図った。 ・毎月、多職種で構成するレセプト委員会を毎月開催し、請求及び減点の状況・対応策の周知を行うなど、診療報酬請求の精度向上に努めている。 																

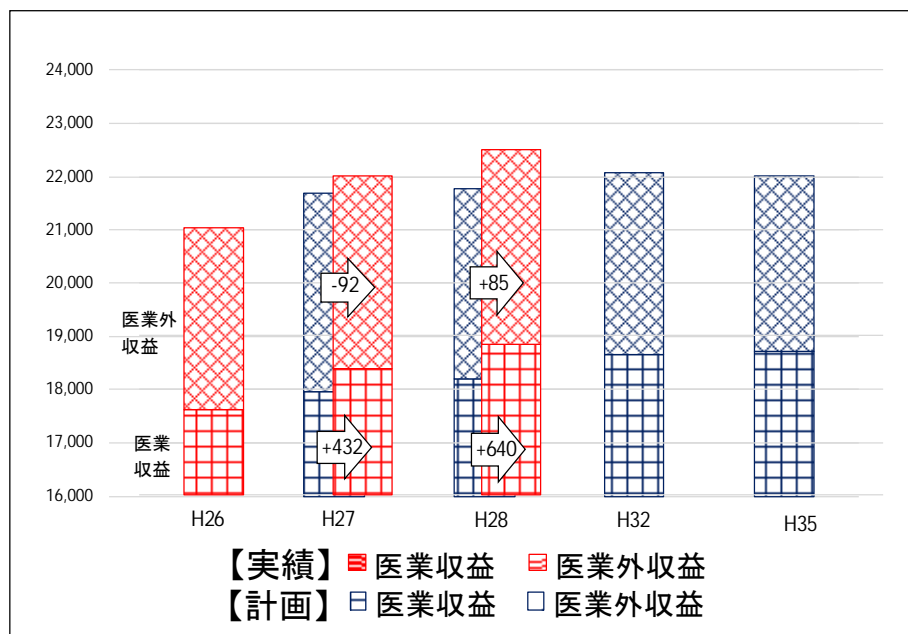
主要施策項目	施策の概要	進捗状況				平成28年度実績の説明																			
		達成	順調	努力	その他																				
		◎	○	△	—																				
(4) 未収金の発生防止と回収促進	診療費用の患者負担分について、医療費に関する支払相談の充実等により、未収金の発生防止に努めます。 未収金が発生した場合には、早期の納入指導を徹底するとともに、適宜、文書・電話・戸別訪問等による督促を実施し、回収不能債権の発生防止を図ります。 また一定の要件を満たす場合には、「支払督促等の法的措置」により、未収金の回収に取り組みます。		○			・未収金額 医療収益が増加傾向にある中、医療未収金（患者負担分）においてクレジットカード払い分や交通事故や労災事故に伴う保険金など手続きの関係上、収納は確実であるが、一時的に未収金とされるものを除いた実質上の未収金額は、3病院の合計で、平成28年度は1億9,055万3,490円であり、平成27年度に比べ853万8,294円減少している。 ・未収金の発生防止及び回収促進への取組み 医事受託業者等との連携による未収金発生抑制及び回収の促進、電話、文書や個別訪問による督促、一定の要件を満たす場合の法的措置（支払督促）の実施など、これまでの取組みに加え、回収が困難となっているものについては、弁護士法人に回収を委託することとするなど、多様な方策を講じ、未収金の発生防止と回収の促進を図った。																			
(5) 医師の確保と育成（再掲）			○																						
(1) 後発医薬品の採用	患者負担の軽減とともに費用の削減に繋がる後発医薬品の採用について、DPC分析の検証に基づき、計画的な拡大に取り組みます。		◎			・各病院の薬事審議会を通じて、採用医薬品について随時後発医薬品への切り替えを進めた。その結果、後発医薬品数量割合については、平成28年度末において、すべての病院で「80%」を超え、前倒して計画目標を達成した。																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>主要指標</th> <th>計画策定時 (H26年度) 数値</th> <th>H28年度 実績値</th> <th>H32年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○後発医薬品割合</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>【中央病院】</td> <td>68.4%</td> <td>82.6%</td> <td>70% (※H28年度)</td> </tr> <tr> <td>【三好病院】</td> <td>63.9%</td> <td>83.0%</td> <td>80% (※H30年度)</td> </tr> <tr> <td>【海部病院】</td> <td>82.2%</td> <td>90.7%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	主要指標	計画策定時 (H26年度) 数値	H28年度 実績値	H32年度 目標値	○後発医薬品割合				【中央病院】	68.4%	82.6%	70% (※H28年度)	【三好病院】	63.9%	83.0%	80% (※H30年度)	【海部病院】	82.2%	90.7%					
主要指標	計画策定時 (H26年度) 数値	H28年度 実績値	H32年度 目標値																						
○後発医薬品割合																									
【中央病院】	68.4%	82.6%	70% (※H28年度)																						
【三好病院】	63.9%	83.0%	80% (※H30年度)																						
【海部病院】	82.2%	90.7%																							
(2) 医療器械等の共同購入の推進（再掲）				△																					
(3) 効率的な委託契約の推進	業務委託契約については、引き続き、契約の見直しを進め、病院業務の特殊性・専門性・質の確保を考慮しつつ、長期継続契約の推進に努めるとともに、各病院毎に個別に契約している同種の業務について、スケールメリットを活かした一括契約への変更を推進し、経費の節減に取り組みます。 また、委託業務については、定期的に業務内容の検証、評価を行い、効率的な執行に努めます。		○			・業務委託契約の見直しについては、効率性と品質を確保するため、長期継続契約の拡大に向け、条例所管課への積極的な働きかけを進めた。その結果、平成28年10月に「徳島県長期継続契約に関する条例」の一部が改正され、平成29年度の委託契約より、長期継続契約の対象が拡大された。 ・平成29年度の物品管理・洗浄滅菌業務については、スケールメリットを活かし、病院局において3病院を一括した契約を締結し、事務の効率化と品質確保に努めた。 【中央病院】 ・主な委託業務（給食、検査、警備、清掃、医事、システム、電話）については、毎月委託業務管理評価部会を開き、業務内容の検証、見直し等を行うとともに、その他の委託契約についても業務内容の見直しを行った。 【三好病院】 ・医事業務及び清掃業務の業務委託契約において、プロポーザルによる長期継続契約を締結する等、効率化及び経費の節減に努めた。今後は、引き続き各委託業務内容の見直しについて検討していく。 【海部病院】 ・医事業務について、プロポーザルの実施により、複数年契約（3年）を行った。 ・新病院移転に合わせて、「警備及び当直業務」「カーテン・ブラインド等賃貸借及び管理業務」について、プロポーザルによる業者選定を行い、長期継続契約を行った。委託業務については、引き続き定期的に業務内容の検証・評価を行い、効率的な執行に努めていきたい。																			
(4) 医療情報システムの統一化及び総務事務のICT化	県立3病院の電子カルテシステムを中心とした医療情報システムの統一化により、導入費用ならびに管理費用の低減を図るとともに、各病院間の患者連携やスタッフの移動に円滑に対応できる利用環境を構築します。 また、職員の勤務関係の処理など総務事務に係る電子決裁化により事務処理の省略化を図ります。		○			・県立3病院でのシステムの相互利用を可能とすることにより、「業務の効率化」を図るとともに、現在、各病院ごとに構築しているシステムサーバを一つのところに集約し、3病院で一体的な管理を行うことにより、「導入コスト」、「管理コスト」の低減を図っていくため、平成30年度の3病院のシステム統一化に向けて「病院総合情報システム統一化事業」を推進した。 ・具体的に平成28年度は、医療システム専門のコンサルタント会社を調達するとともに、当該事業の推進組織（メンバー：本局、3病院、コンサルタント会社）である「病院総合情報システム導入会議」等を設置し、6月のキックオフ会議を皮切りに、現行システム調査、次期システムへの要望ヒアリングに始まり、平成27年度に策定した「整備方針」をより具現化するために、システム統一化に向けてのより具体的な計画、詳細な手法をまとめた「基本方針」を策定するとともに、「暫定版調達仕様書（案）」を作成した。 ・総務事務システムの導入については、関係課と協議検討を行った。																			
(5) 事務部門のスリム化と強化	事務部門が効率的に業務を遂行し、病院経営における専門性を強化するために、改築事業等の進展や、本局・病院間の業務配分の見直しに伴う体制変更を検討するとともに、医事部門・医療情報部門・地域連携部門・物品購入部門における専門性の高い職員の採用及び育成を図ります。		○			・各病院において、課を廃止し、担当制とし、各担当にリーダーを配置することで、効率的な業務の遂行を行った。また、医療情報職を平成29年4月から採用したほか、海部病院の新築移転に伴う業務量増に対応するため、本局職員を海部病院に兼務配置とした。																			
(6) 病院資産の有効活用	将来の病院機能の整備に向け、医師公舎等の病院資産の有効活用を図るため、用途変更や処分を含めた効率的な活用方針について検討を行います。		○			・老朽化が進んだ中央病院の医師公舎について、不足する駐車場スペースとして新たに整備し、有効活用によるサービスの向上を図った。																			

徳島県病院事業 収支の状況

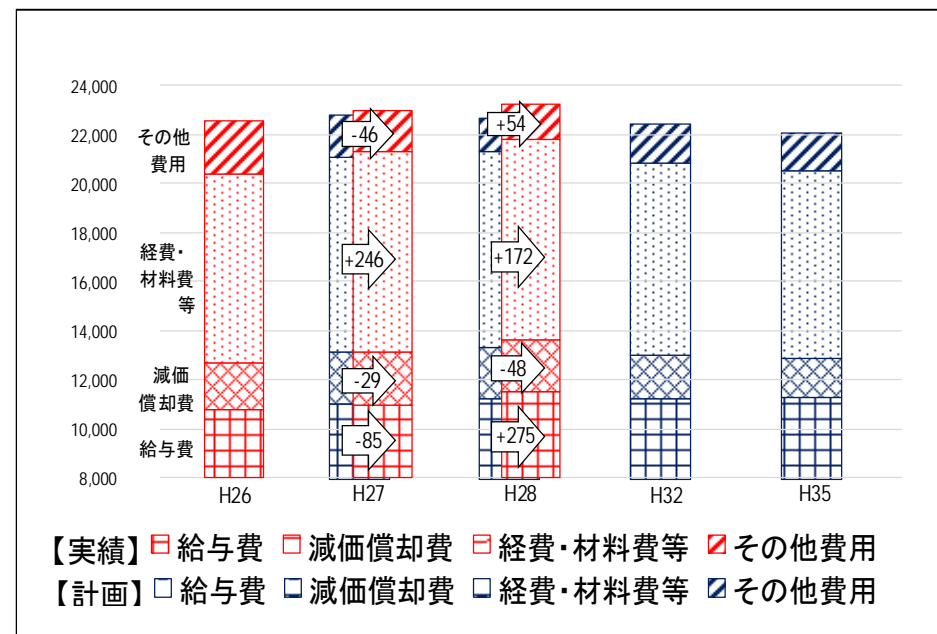
平成29年12月15日
県立病院を良くする会資料

1 経営計画と実績(全体)

(1) 総収益(単位:百万円)



(2) 総費用(単位:百万円)



(3) 純損益(単位:百万円)

区分	H26	H27	H28	H32	H35
計画	-	▲ 1,208	▲ 986	▲ 440	▲ 165
実績	▲ 1,458	▲ 954	▲ 714	-	-
差引	-	254	272	-	-

(4) 概況

- 収益: 診療単価の上昇により医業収益が増加
- 費用: 給与改定などによる給与費の増加
改築に伴う除却・移転費用の増加
医業収益の増加に伴う診療材料費の増加

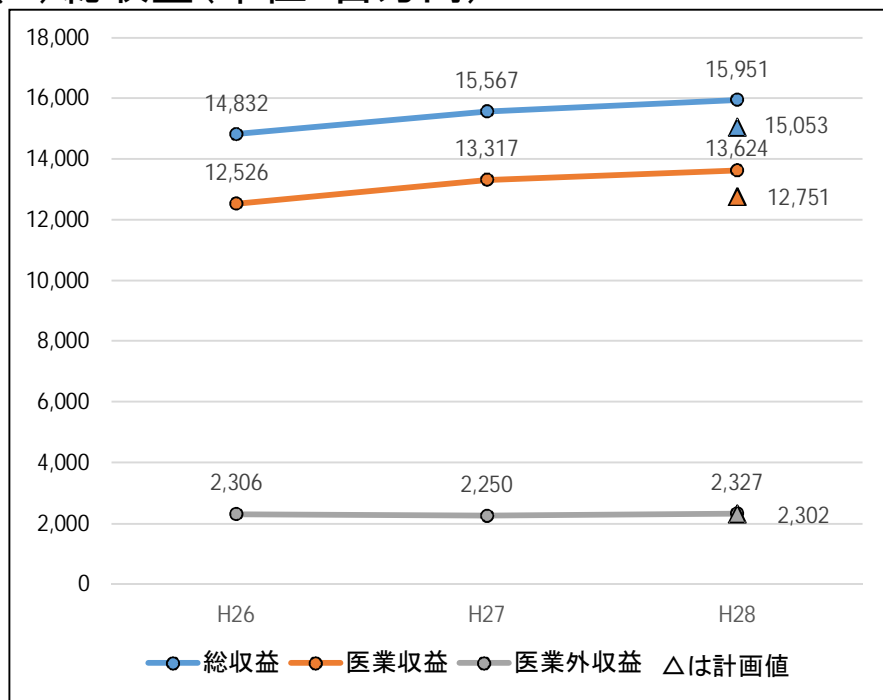
(5) 計画に対する評価

- 診療収益が過去最高を更新し、計画を上回る収支改善

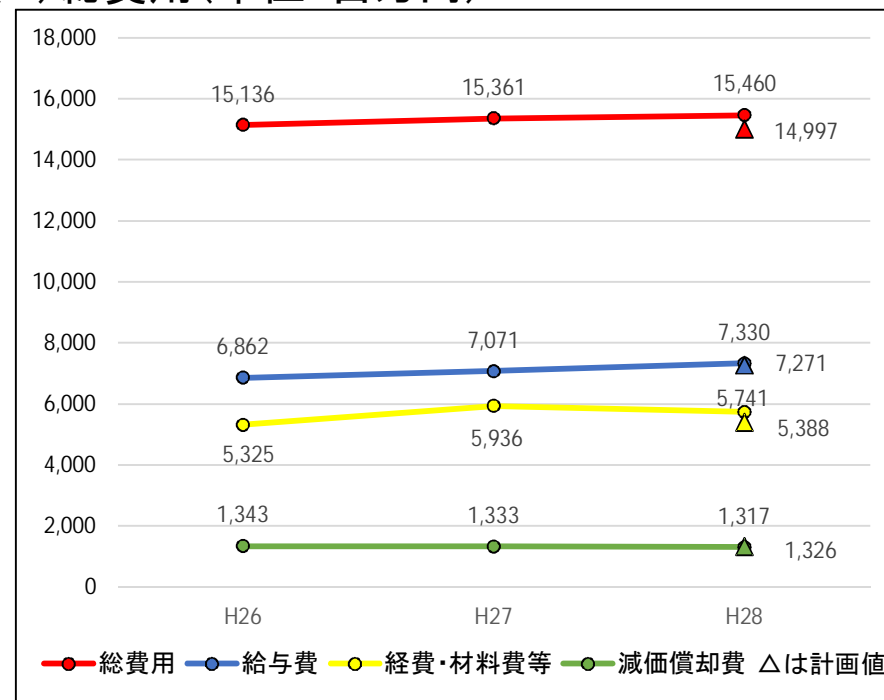
2-1 病院別の状況

中央病院

(1) 総収益(単位:百万円)



(2) 総費用(単位:百万円)



(3) 純損益(単位:百万円)

区分	H26	H27	H28
計画	—	149	56
実績	▲ 304	206	491
差引	—	57	435

(4) 平成28年度収支の概況

- 収益: 診療単価の上昇により医業収益が増加
- 費用: 医師公舎解体による除却

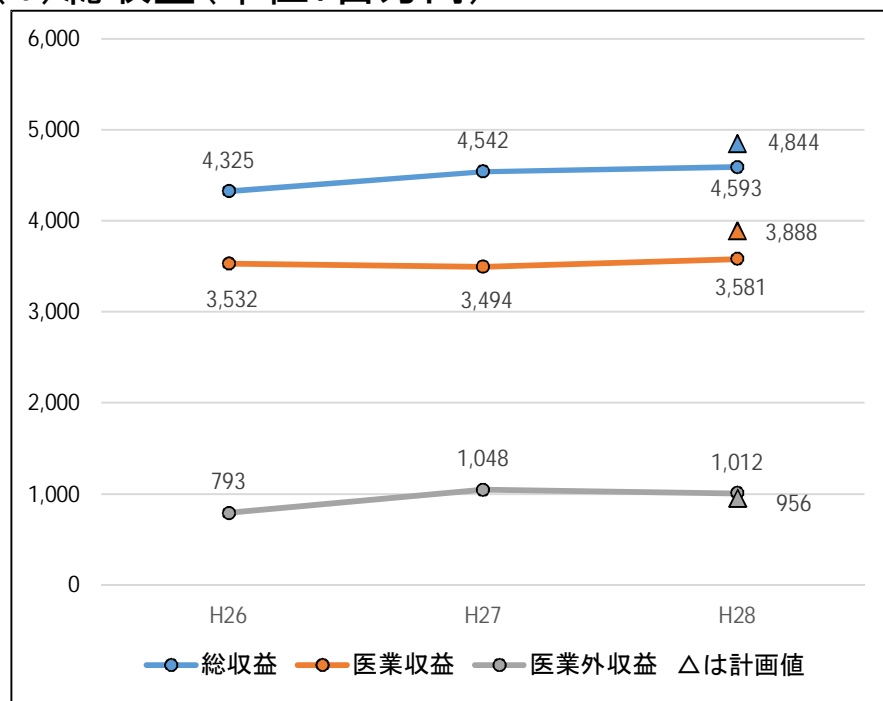
(5) 計画に対する評価

- 診療収益の大幅な増加により、2年連続の黒字を達成

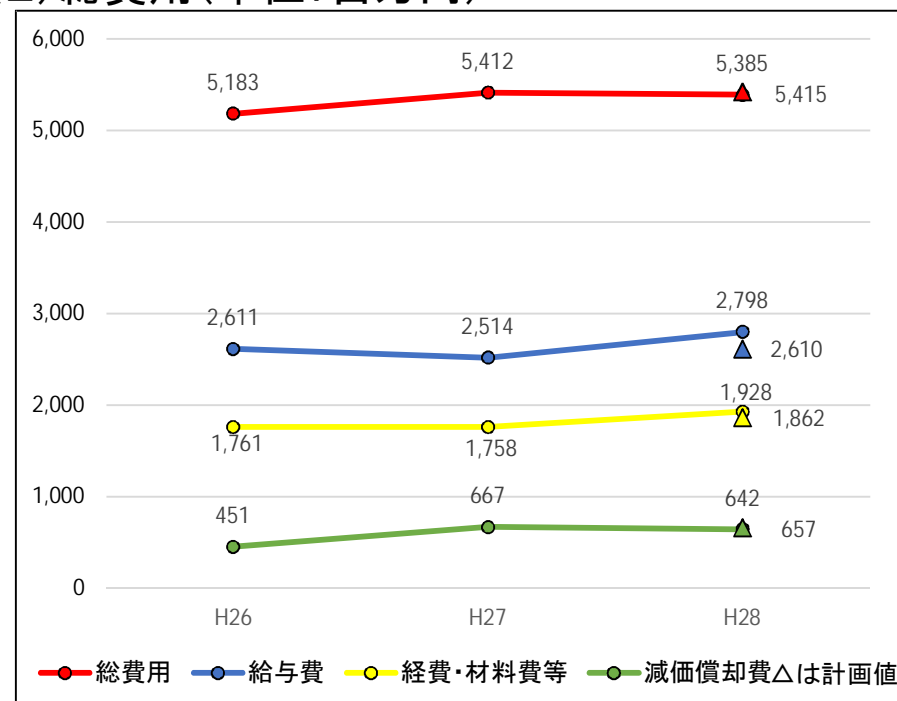
2-2 病院別の状況

三好病院

(1) 総収益(単位:百万円)



(2) 総費用(単位:百万円)



(3) 純損益(単位:百万円)

区分	H26	H27	H28
計画	—	▲ 1,079	▲ 571
実績	▲ 858	▲ 870	▲ 792
差引	—	209	▲ 221

(4) 平成28年度収支の概況

- 収益:診療単価の上昇の一方、患者数減少のため横ばい
- 費用:施設・器械等の減価償却費(約1.9億円)、委託料(約0.6億円)の増加

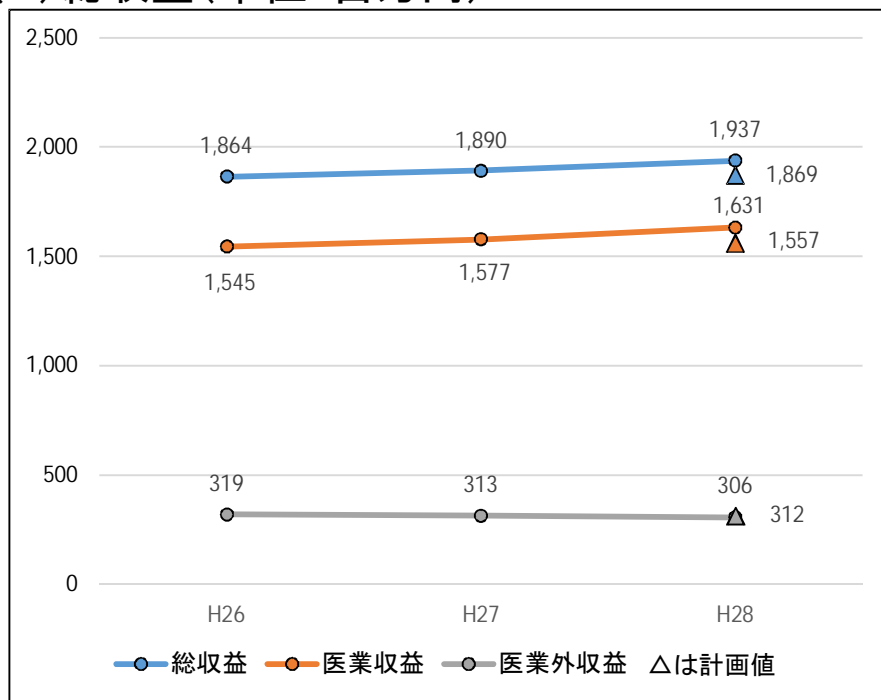
(5) 計画に対する評価

- 計画に沿った収支改善に向けて、更なる収益増の取り組みが必要

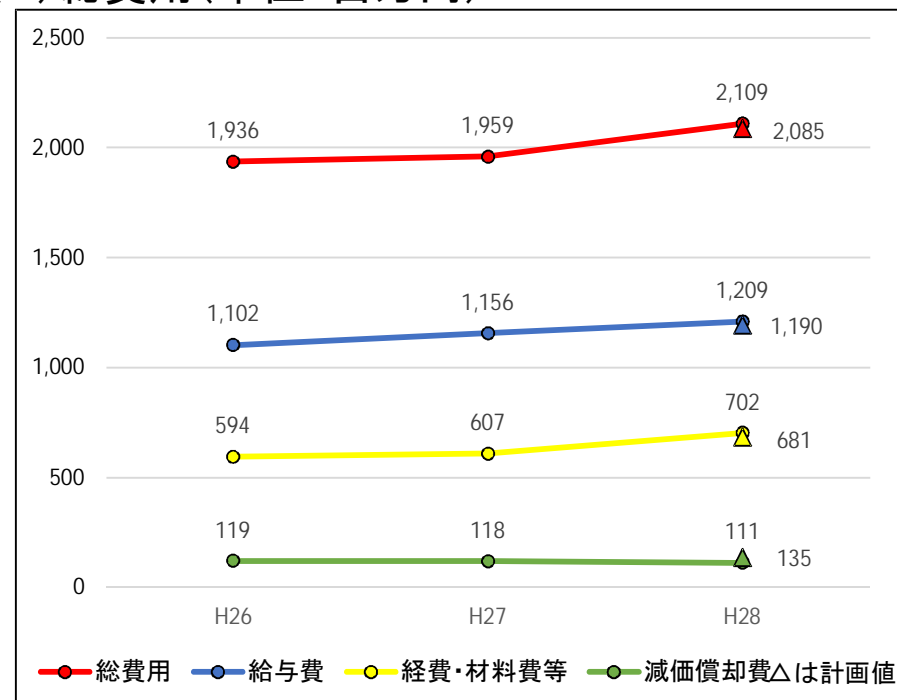
2-3 病院別の状況

海部病院

(1) 総収益(単位:百万円)



(2) 総費用(単位:百万円)



(3) 純損益(単位:百万円)

区分	H26	H27	H28
計画	—	▲ 37	▲ 216
実績	▲ 72	▲ 69	▲ 172
差引	—	▲ 32	44

(4) 平成28年度収支の概況

- 収益: 診療単価の上昇により医業収益が増加
- 費用: 新病院開院に伴う臨時的経費の増加

(5) 計画に対する評価

- 診療収益の増加により収支改善

3 前年度決算額及び経営計画 収支計画との比較

(単位:百万円)

区分		H28決算 (A)	H27決算 (B)	H28計画 (C)	(A)－(B)	(A)－(C)
総収益	医業収益	18,836	18,388	18,196	448	640
	(中央病院)	13,624	13,317	12,751	307	873
	(三好病院)	3,581	3,494	3,888	87	▲ 307
	(海部病院)	1,631	1,577	1,557	54	74
	医業外収益	3,671	3,642	3,586	29	85
	(中央病院)	2,327	2,250	2,302	77	25
	(三好病院)	1,012	1,048	956	▲ 36	56
	(海部病院)	306	313	312	▲ 7	▲ 6
	特別利益	0	0	0	0	0
	(中央病院)	0	0	0	0	0
	(三好病院)	0	0	0	0	0
	(海部病院)	0	0	0	0	0
	計	22,507	22,030	21,782	477	725
	(中央病院)	15,951	15,567	15,053	384	898
(三好病院)	4,593	4,542	4,844	51	▲ 251	
(海部病院)	1,937	1,890	1,869	47	68	

(単位:百万円)

区分		H28決算 (A)	H27決算 (B)	H28計画 (C)	(A)－(B)	(A)－(C)
総費用	医業費用	21,783	21,292	21,384	491	399
	(中央病院)	14,389	14,340	13,985	49	404
	(三好病院)	5,109	4,821	5,129	288	▲ 20
	(海部病院)	2,022	1,881	2,006	141	16
	(給与費)	11,552	10,981	11,277	571	275
	(中央病院)	7,330	7,071	7,271	259	59
	(三好病院)	2,798	2,514	2,610	284	188
	(海部病院)	1,209	1,156	1,190	53	19
	(減価償却費)	2,072	2,121	2,120	▲ 49	▲ 48
	(中央病院)	1,317	1,333	1,326	▲ 16	▲ 9
	(三好病院)	642	667	657	▲ 25	▲ 15
	(海部病院)	111	118	135	▲ 7	▲ 24
	医業外費用	1,404	1,368	1,384	36	20
	(中央病院)	1,037	1,021	1,012	16	25
	(三好病院)	276	267	286	9	▲ 10
	(海部病院)	87	78	79	9	8
	特別損失	34	324	0	▲ 290	34
(中央病院)	34	0	0	34	34	
(三好病院)	0	324	0	▲ 324	0	
(海部病院)	0	0	0	0	0	
計	23,221	22,984	22,768	237	453	
(中央病院)	15,460	15,361	14,997	99	463	
(三好病院)	5,385	5,412	5,415	▲ 27	▲ 30	
(海部病院)	2,109	1,959	2,085	150	24	
純 損 益	▲ 714	▲ 954	▲ 986	240	272	
(中央病院)	491	206	56	285	435	
(三好病院)	▲ 792	▲ 870	▲ 571	78	▲ 221	
(海部病院)	▲ 172	▲ 69	▲ 216	▲ 103	44	